

令和3年度  
新潟県立看護大学  
自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－  
－各種委員会等の活動報告－

令和4年3月



新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing



# 専任教員の活動業績

# 1 研究、社会及び学内教育活動業績

## (1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、令和3年4月から令和4年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 令和3年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は令和4年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみの表示とする。

オ 令和3年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

<p>(2) 活動業績掲載順</p> <p><b>【共通科目】</b></p> <p><b>I 人間環境科学領域</b></p> <p>社会科学 渡辺 弘之…………… 1</p> <p>徐 淑子…………… 2</p> <p>情報科学 中村 義実…………… 4</p> <p>永吉 雅人…………… 5</p> <p>エルダトン・サイモン… 8</p> <p><b>II 自然科学領域</b></p> <p>生物・医学 境原 三津夫…………… 10</p> <p>堀江 正男…………… 11</p> <p>葛城 美德…………… 12</p> <p><b>【専門科目】</b></p> <p><b>III 基礎看護学領域</b></p> <p>看護教育学 舟島 なをみ…………… 13</p> <p>看護管理学 伊豆上 智子…………… 16</p> <p>基礎看護学 岡村 典子…………… 17</p> <p>川島 良子…………… 19</p> <p>谷内田 潤子…………… 20</p> <p>山岸 美奈子…………… 21</p> <p>山田 彩乃…………… 22</p> <p><b>IV 臨床看護学領域</b></p> <p>成人看護学 石田 和子…………… 23</p> <p>高柳 智子…………… 25</p> <p>酒井 禎子…………… 26</p> <p>樺澤 三奈子…………… 28</p> <p>小林 綾子…………… 30</p> <p>石原 千晶…………… 31</p> <p>石岡 幸恵…………… 32</p> <p>相澤 達也…………… 33</p> <p>高橋 絹代…………… 35</p>	<p>小児看護学 大久保 明子…………… 36</p> <p>山田 恵子…………… 38</p> <p>野澤 祥子…………… 39</p> <p>伊藤 ひかる…………… 40</p> <p>小林 宏至…………… 41</p> <p>母性・助産 西田 絵美…………… 42</p> <p>看護学 八巻 ちひろ…………… 43</p> <p>上田 恵…………… 44</p> <p>五十畑 麻奈美…………… 45</p> <p><b>V 地域生活看護学領域</b></p> <p>老年看護学 小野 幸子…………… 46</p> <p>原 等子…………… 48</p> <p>河原畑 尚美…………… 51</p> <p>大口 洋子…………… 53</p> <p>大倉 由貴…………… 54</p> <p>東條 紀子…………… 55</p> <p>精神看護学 長谷川 雅美…………… 56</p> <p>谷本 千恵…………… 58</p> <p>佐々木 三和…………… 59</p> <p>船山 健二…………… 60</p> <p>安達 寛人…………… 62</p> <p>地域看護学 平澤 則子…………… 63</p> <p>高林 知佳子…………… 65</p> <p>野口 裕子…………… 67</p> <p>関 睦美…………… 68</p> <p>前川 絵里子…………… 69</p> <p><b>【学 長】</b></p> <p>小泉 美佐子…………… 70</p>
---	---

渡辺弘之

1. 原著論文 (なし)
2. その他論文 (なし)
3. 著書 (なし)
4. 学会発表 (1 件)
  - 1) 渡辺弘之 (2021. 5) : ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの QOL の特徴, 日本ハンセン病学会 (オンライン開催)
5. その他の研究活動 (なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 国立大学法人上越教育大学研究倫理審査委員会委員

【学内教育活動】

学 部 : 基礎ゼミナール, ふれあい実習, 社会学, 社会福祉概論, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 国際交流委員会委員

学年担任, アウトドアサークル, バンドサークル, ほしみサークル, 手話サークル, フットサルサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 渡辺弘之 (研究代表者) (2019~2021) : ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 徐淑子(2022.3) : 保健医療行動とは, 日本保健医療行動科学会雑誌. 36(suppl.), pp6 - 9(査読無)
- 2) 徐淑子(2021.7) : 社会的処方-ソーシャルワークとしての集団活動, 日本保健医療行動科学会雑誌, 36(1), pp77 - 78(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 徐淑子(2021.11) : ハームリダクションの概念と諸外国における成果, 第117回日本精神神経学会学術総会(国立京都国際会議)
- 2) 池田光穂, 徐淑子, 井上大介, 山崎スコウ竜二(2021.12) : 機械の心との対話は可能か?, 第6回大阪大学豊中地区研究交流会(オンライン会場(大阪))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本保健医療行動科学会 評議員
- ・ 第36回日本保健医療行動科学会準備委員会

【社会活動】

- ・ 徐淑子, LGBTってなんだろう, 新潟県立高田高等学校令和3年度人権・同和教育講演会, 新潟県立高田高等学校, 2021年11月19日.
- ・ 徐淑子, 名前の経験, Social Connection-つながり一定例会, NPO法人CHARM, オンライン開催, 2021年10月4日.
- ・ 徐淑子, つながり感が出てくるスクリーン越しの交流, バッハの森通信第151号, 2, 2021年4月.
- ・ [取材協力] 依存症を考える第6部(6)連鎖 家庭影響傷つく子ども/苦しさ吐き出せる場を, 新潟日報, 2021年10月1日.
- ・ 特別活動法人ふれいす東京
- ・ 一般財団法人バッハの森
- ・ 人と人研究会 幹事
- ・ 女性とアディクション研究会 代表
- ・ 新潟ダルク ニュースレター編集担当
- ・ 東京女子医科大学看護学部 非常勤講師(科目「家族関係論」)
- ・ 東京女子医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師(科目「家族論」)
- ・ 桐生大学看護学科 非常勤講師(科目「行動科学」)

【学内教育活動】

学 部 : 基礎ゼミナール2, ふれあい実習, 保健・医療行動科学, 専門ゼミナール1, 専門ゼミナール2  
博士前期課程 : 健康社会学  
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

FD委員会委員, 研究推進委員会委員, 倫理委員会委員, ハラスメント防止委員会相談員  
研究推進委員会主催研修会/講師(話題提供), 学内共同研究助成成果発表会/企画運営担当, RPC カフェ/ア

アドバイザー（研究推進委員）

【外部資金獲得】

- 1) 徐淑子（研究代表者）  
池田光穂（2021～2023）：支援プログラムの「しきい」を下げる：薬物使用者の求助行動とサービスアクセスの研究，科学研究費助成事業（挑戦的研究萌芽）
- 2) 徐淑子（研究代表者）  
池田光穂（2018～2023）：ハーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア：東アジアへの影響、移入、展開，科学研究費助成事業（基盤研究C）
- 3) 池田光穂（研究代表者）  
山崎スコウ竜二、井上大介、徐淑子（2020～2022）：スマートメディアユーザーのナルシズム化と新しい孤独の誕生：民族誌的研究，科学研究費助成事業（基盤研究C）
- 4) 樽井正義（研究代表者）  
生島嗣、野坂祐子、徐淑子（2021～2023）：「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究」，厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野 エイズ対策政策研究

中村 義実

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(1件)
  - 1) 中村義実、マーク・フランク、サイモン・エルダトン(2022. 3) : デニス英語の躍動: アメリカの祝祭日をライブ体験する, 大学教育出版(岡山)
4. 学会発表(1件)
  - 1) 中村 義実、サイモン・エルダトン(2021. 6) : The Ideal L2 Self as a Guide to Nursing Students, 全国看護英語教育学会(Online)
5. その他の研究活動(なし)
  - 1) 前川絵里子、平澤則子、高林知佳子、野口裕子、久保野裕子、中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 異文化コミュニケーション学会
- ・ 全国看護英語教育学会
- ・ ヒューマニスティック英語教育研究会

【社会活動】

- ・ 敬和学園大学非常勤講師「言語コミュニケーション論Ⅰ」
- ・ 埼玉大学教養学部寄附講座講師「自己発見のための異文化理解」

【学内教育活動】

学 部: 英語リーディングⅠ・Ⅱ, 英語ライティングⅠ・Ⅱ, 英語ライティングⅢ・Ⅳ, 基礎ゼミナール, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, ふれあい実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, カリキュラム検討委員会委員  
新潟県大学ガイダンスセミナー(コーディネーター)

【外部資金獲得】

- 1) 柳田 綾(研究代表者)  
"加賀田哲也、三浦孝、峯島道夫、永倉由里、中村義実、他(2020~2022)": 英語コミュニケーション能力と人間性を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)



永吉雅人

1. 原著論文 (2 件)

- 1) Masato Nagayoshi, Simon J. H. Elderton and Hisashi Tamaki (2021. 6) : A Multi-agent Reinforcement Learning Method for Role Differentiation Using State Space Filters with Fluctuation Parameters, Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, 8 (1), pp6 - 9 (査読有)
- 2) 安達 寛人, 中村 幸恵, 永吉 雅人, 岡村 典子 (2021. 6) : 医療観察法病棟管理者の勤務計画表作成における所要時間と支援の認識に関する実態調査, 日本精神保健看護学会誌, 30 (1), pp59 - 65 (査読有)

2. その他論文 (4 件)

- 1) 留目宏美, 永吉雅人, 池川茂樹, 大庭重治 (2022. 3) : メンタルヘルスに関する問題を抱える児童生徒に対する支援の実態—校種及び校内支援体制による比較—, 上越教育大学研究紀要, 41 (2) , pp347 - 357 (査読有)
- 2) 永吉雅人, 荒井美結, 石崎日向子, 小日向美紀, 斎藤日菜, 佐久間春花, 関澤彩夏, 中澤千秋, 蒔田遥, 丸山愛莉, 渡辺真希 (2022. 3) : 触図触察の慣れによって触察能力は向上するか, 新潟の生活文化, 28, pp15 - 17 (査読無)
- 3) 永吉雅人 (2022. 1) : PS1-PS7: 学生ポスターセッション, 電気学会 電子・情報・システム部門 News Letter, 142 (1) 付録, pp13 - 14 (査読無)
- 4) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子 (2021. 6) : 医療観察法病棟管理者の勤務計画表作成における所要時間と支援の認識に関する実態調査, 日本精神保健看護学会誌, 30 (1) , pp59 - 65 (査読有)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (5 件)

- 1) Masato Nagayoshi, Hisashi Tamaki (2022. 1) : A basic study of how to exchange work shifts using reinforcement learning on a constructive nurse scheduling system, International Conference on Artificial Life and Robotics 2022 (ICAROB' 22) (on line)
- 2) 大庭重治, 永吉雅人 (2021. 8) : 小・中学校における健康管理に関する養護教諭の問題認識と配慮内容 - COVID-19 感染拡大直前のアンケート調査より-, 日本教育心理学会第 63 回総会 (on line)
- 3) 永吉雅人, 玉置久 (2021. 9) : 強化学習を用いた構築型ナーススケジューリングシステムの試み, 2021 年電気学会電子・情報・システム部門大会 (on line)
- 4) 永吉雅人, 玉置久 (2021. 11) : 構築型ナーススケジューリングシステムにおける強化学習を用いた勤務修正法, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 (SSI2021) (on line)
- 5) 永吉雅人, 玉置久 (2021. 12) : 構築型ナーススケジューリングシステムにおける強化学習を用いた勤務修正法: 報酬設定に関する基礎的検討, 電気学会システム・制御合同研究会 (on line)

5. その他の研究活動 (なし)

【学会等における活動】

- ・ 電気学会 論文委員会 (C2 グループ) 委員
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会 委員
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門役員会 委員
- ・ 電気学会 電子・情報・システム論文誌 2022 年 2 月特集号 論文幹事
- ・ システム制御情報学会
- ・ 計測自動制御学会
- ・ 電気学会
- ・ 室内環境学会
- ・ 日本公衆衛生学会

- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ "The 2022 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2022)
- ・ GS2 Learning Methods Chair"
- ・ 2021 IEEE 12th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2021) Reviewer
- ・ 令和3年電気学会全国大会5グループ論文委員会 委員
- ・ 2021年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会論文委員会 委員
- ・ 2021年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員
- ・ 2022年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員
- ・ 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2021 SS06 システム・モデリングと最適化技法 オーガナイザ

#### 【社会活動】

- ・ 新潟県立上越総合技術高等学校 学校評議員
- ・ 新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援公開講座 はじめよう看護研究⑤「わかりやすいプレゼンテーション」講師
- ・ 頭痛や吐き気「香害」理解を, 読売新聞佐賀県版 (2021. 6. 19 発行)
- ・ NPO 法人 関川水辺クラブ
- ・ NPO 法人 新潟県難病相談支援センター
- ・ 手洗い研修により介護職員の手洗いが習慣化するかの検証～A介護老人保健施設における感染予防への取り組み～
- ・ 上越教育大学・新潟県立看護大学 共同研究グループ主催 2021年度第2回公開自主セミナー(2021. 10. 20.) において講師の1人として「メンタルヘルスに関する問題を抱える児童生徒に対する支援の実態-校内支援体制と個別支援計画、支援・配慮の関連に着目して-」についてオンラインにより話題提供を行った(30名参加(養護教諭の参加多数))。
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 先端システムの超知能化を指向した機械学習技術協同研究委員会 委員
- ・ カナリア・ネットワーク全国(CAN) 賛同人(2021. 7. 31-)
- ・ 令和3年度上越教育大学主催トークイベント「特別なニーズを有する子どもたちの学びを問う-心身の健康づくりに着目して-」をオンライン開催(2022. 3. 5)において企画・実行を「通級による指導の教育課程における学校保健情報の活用に関する基礎的研究」研究チームのメンバーとして担った(44名参加(養護教諭の参加多数))。

#### 【学内教育活動】

学 部：情報処理演習, 情報科学, 疫学, ふれあい実習, 基礎ゼミナール, 保健統計演習, ボランティア活動  
 博士前期課程：看護情報統計学  
 博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長, 情報ネットワーク実行部会委員長, 研究推進委員会副委員長, 入試・広報委員会委員  
 水研究, ソフトテニス, バスケットボールサークル顧問

#### 【外部資金獲得】

- 1) 永吉雅人(研究代表者)  
 (2019～2021)：強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 大庭重治(研究代表者)

葉石光一、笠原芳隆、八島猛、佐藤将朗、坂口嘉菜、上野光博、留目宏美、池川茂樹、境原三津夫、大久保明子、高柳智子、永吉雅人(2020～2022)：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築，科学研究費助成事業(基盤研究B)

3) 留目宏美(研究代表者)

藤井和子、関原真紀、池川茂樹、永吉雅人、岩本佳世、内海まゆみ(2021～2022)：通級による指導の教育課程における学校保健情報の活用に関する基礎的研究，令和3年度上越教育大学研究プロジェクト

## エルダトン・サイモン

### 1. 原著論文(1件)

- 1) Masato Nagayoshi, Simon J. H. Elderton and Hisashi Tamaki (2021. 6) : A Multi-agent Reinforcement Learning Method for Role Differentiation Using State Space Filters with Fluctuation Parameters , Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, 8(1), pp6 - 9(査読有)

### 2. その他論文(なし)

### 3. 著書(1件)

- 1) 中村義実、マーク・フランク、サイモン・エルダトン(2022. 3) : デニス英語の躍動: アメリカの祝祭日をライブ体験する, 大学教育出版(岡山)

### 4. 学会発表(1件)

- 1) Nakamura Yoshimi and Elderton Simon (2021. 6) : The Ideal L2 Self as a Guide to Nursing Students, 全国看護英語教育学会 (Online)

### 5. その他の研究活動(なし)

#### 【学会等における活動】

- ・ The Japan Association of Language Teachers
- ・ College and University Education SIG
- ・ Pragmatics SIG
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ 全国看護英語教育学会
- ・ 22q11.2 Society
- ・ CAN (Conversation Analysis Network) -Kanto

#### 【社会活動】

- ・ NPO 法人親子の未来を支える会第5回 22q11.2 Nagano Zoo ふれあいWeb 交流会
- ・ NPO 法人親子の未来を支える会 22q11.2 就学サポート アドバイザー
- ・ 他大学・機関の教員の多数の研究の翻訳および英語の指導
- ・ 上越教育大学で非常勤講師
- ・ 十日町看護専門学校で非常勤講師

#### 【学内教育活動】

学 部 : 英語コミュニケーションⅠA, 英語コミュニケーションⅠB, 英語コミュニケーションⅡA, 英語コミュニケーションⅡB, 英語コミュニケーションⅢ, 国際看護演習, 基礎ゼミナール4, ふれあい実習, ボランティア活動

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

#### 【学内委員会等の活動】

国際交流委員会副委員長, 学生委員会副委員長, 紀要委員会委員  
バレーボール, 吹奏楽団サークル顧問, 2021 国際交流セミナー 「国内外における最新の COVID-19 対策の動向と見通し」

#### 【外部資金獲得】

- 1) 北村千章 (研究代表者)  
エルダトン サイモン、中込さと子、榎本淳子、桐生徹、稲葉雄二、石黒浩毅、早川統子、室亜衣 (2019～2022) : 就学中の 22q11.2 欠失症候群の子どもの教育者と医療者の協働に関する研究, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 2) 境原三津夫 (研究代表者)  
Elderton Simon (2018～2022) : 小児病院におけるファシリテッドッグ導入促進のためにー細菌学的視点からみた安全性ー, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

境原 三津夫

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大庭重治, 境原三津夫(2022.3): 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携の取組, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 28, pp47 - 49 (査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 杉山泰子, 境原三津夫(2021.12): 性犯罪・性暴力における支援者の職業性ストレスに関する文献検討, 日本セーフティプロモーション学会 第15回学術大会(新潟県上越市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本セーフティプロモーション学会 理事
- ・ 日本産科婦人科学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本補完代替医療学会
- ・ 日本温泉気候物理医学会
- ・ 新潟県看護ケア学会
- ・ 日本セーフティプロモーション学会第15回学術大会 大会長

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 臨床病態学Ⅰ, 臨床病態学Ⅱ, 母性看護学Ⅱ, ふれあい実習, 助産学Ⅰ, 基礎ゼミナール, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 病態生理学, フィジカルアセスメント, がん看護学特論Ⅲ

博士後期課程: 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

図書委員会(図書館長)委員長, 衛生委員会(衛生管理者)委員, 情報ネットワーク特別委員会委員, 外部評価特別委員会委員, 自己点検評価委員会委員

学校医, バドミントンサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 境原三津夫(研究代表者)

Elderton Simon(2018~2022): 小児病院におけるファシリティドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

- 2) 大庭重治(研究代表者)

境原三津夫他(2020~2022): 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

堀江 正男

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 新潟大学医学部医学科 人体の構造と機能 II 非常勤講師
- ・ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 客員研究員
- ・ 南相馬市における高等教育機関連携事業『新たな学校づくりプロジェクト』 小高中学校講義

【学内教育活動】

学 部：形態機能学 I, 形態機能学 II, 生物学, 基礎ゼミナール, ふれあい実習, 感染学, 臨床薬理学, 臨床栄養学

博士前期課程：疫学

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員長, 倫理委員会副委員長, 入試広報委員会副委員長

災害時看護支援特別委員会研修会コーディネーター

【外部資金獲得】

なし

葛城美德

1. 原著論文 (3 件)

- 1) Taichi Kakihana, Masahiko Takahashi, Yoshinori Katsuragi, Shun-Ichi Yamashita, Junya Sango, Tomotake Kanki, Osamu Onodera, Masahiro Fujii (2021. 7) : The optineurin/TIA1 pathway inhibits aberrant stress granule formation and reduces ubiquitinated TDP-43 , iScience, 24 (7), pp102733<https://doi.org/10.1016/j.isci.2021.102733> (査読有)
- 2) Junya Sango, Taichi Kakihana, Masahiko Takahashi, Yoshinori Katsuragi, Sergei Anisimov, Masaaki Komatsu, Masahiro Fujii (2022. 1) : USP10 inhibits the dopamine-induced reactive oxygen species-dependent apoptosis of neuronal cells by stimulating the antioxidant Nrf2 activity. The Journal of biological chemistry, 298 (1), pp101448<https://doi.org/10.1016/j.jbc.2021.101448> (査読有)
- 3) Masahiko Takahashi, Hiroki Kitaura, Akiyoshi Kakita, Taichi Kakihana, Yoshinori Katsuragi, Osamu Onodera, Yuriko Iwakura, Hiroyuki Nawa, Masaaki Komatsu, Masahiro Fujii (2022. 3) : USP10 inhibits aberrant cytoplasmic aggregation of TDP-43 by promoting stress granule clearance. Molecular and cellular biology, 42 (3), MCB0039321, pp<https://doi.org/10.1128/MCB.00393-21> (査読有)

2. その他論文 (件)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (なし)

5. その他の研究活動 (なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本セーフティプロモーション学会 第15回学術大会実行委員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：臨床栄養学, 感染学, 臨床生化学, 臨床薬理学, 基礎ゼミナール, ふれあい実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会委員長, 国際交流委員会委員, 倫理委員会委員

【外部資金獲得】

1) 葛城美德 (研究代表者)

野中隆 (2020~2022) : アグリソームによる $\alpha$ シヌクレインのプリオン様増殖抑制機構, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)



## 舟島なをみ

### 1. 原著論文 (5 件)

- 1) 鹿島嘉佐音, 舟島なをみ, 中山登志子 (2022. 3) : 「職場の『働きやすさ』評価尺度-病院スタッフ看護師用-」を用いた評価活動の有効性検証, 看護教育学研究, 31 (1), pp1 - 14 (査読有)
- 2) 服部美香, 舟島なをみ (2022. 3) : 「学習ニードアセスメントツール-スタッフ看護師用-」の開発, 看護教育学研究, 31 (1), pp15 - 26 (査読有)
- 3) 丸山紀子, 舟島なをみ (2022. 3) : 中小規模病院の看護部長が担う院内教育提供に関わる役割, 看護教育学研究, 31 (1), pp27 - 42 (査読有)
- 4) 高橋吏才子, 中山登志子, 植田満美子, 舟島なをみ (2022. 3) : 職務上の困難に起因し病院を退職した看護師の退職に至る経験, 看護教育学研究, 31 (1), pp43 - 56 (査読有)
- 5) 上國料美香, 舟島なをみ (2021. 11) : 「患者安全のための医療事故防止行動自己評価尺度-看護師長用-」の開発, 日本看護科学学会誌, 41, pp441 - 448 (査読有)

### 2. その他論文 (なし)

### 3. 著書 (1 件)

- 1) 杉森みどり, 舟島なをみ (2021. 4) : 看護教育学 第7版, 医学書院 (東京)

### 4. 学会発表 (8 件)

- 1) 中山登志子, 舟島なをみ (2021. 12) : 看護系大学院の修士論文指導に携わる教員の研究指導経験の解明, 第41回日本看護科学学会学術集会 (WEB 開催)
- 2) 横山京子, 舟島なをみ (2021. 12) : 小児看護に携わる看護師が講じている医療事故防止対策の解明, 第41回日本看護科学学会学術集会 (WEB 開催)
- 3) Toshiko Nakayama, Naomi Funashima (2021. 11) : Problems That Nursing Faculty in Japan Encounter When Supervising Master's Theses: Differences by Supervision Experience, 46th Biennial Convention, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing (Indianapolis, USA and WEB 開催)
- 4) 中山登志子, 舟島なをみ (2021. 11) : 手術室の看護に携わる看護師が講じている医療事故防止対策, 第52回 (2021年度) 日本看護学会学術集会 (WEB 開催)
- 5) 丸山紀子, 舟島なをみ (2021. 8) : 中小規模病院の看護部長が担う院内教育提供に関わる役割, 日本看護教育学学会第30回学術集会 (WEB 開催)
- 6) 植田満美子, 舟島なをみ, 中山登志子 (2021. 8) : 潜在看護師の離職から復職に至る過程-復職に至った潜在看護師の経験の二次分析を通して-, 日本看護教育学学会第30回学術集会 (WEB 開催)
- 7) 伊勢根尚美, 中山登志子, 舟島なをみ (2021. 8) : 「病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度」を用いた自己評価の有効性の検証, 日本看護教育学学会第30回学術集会 (WEB 開催)
- 8) 高橋吏才子, 中山登志子, 植田満美子, 舟島なをみ (2021. 8) : 病院を退職した看護師の経験の概念化-2年以上就業を継続した看護師に焦点を当てて-, 日本看護教育学学会第30回学術集会 (WEB 開催)

### 5. その他の研究活動 (なし)

#### 【学会等における活動】

- ・ 日本看護教育学学会 相談役
- ・ 日本看護学教育学会 評議員
- ・ 千葉看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護管理学会

- ・ 文化看護学会
- ・ 日本教育学会
- ・ Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing
- ・ King International Nursing Group
- ・ 日本看護教育学会第30回学術集会/基調講演「看護教育学における研究の軌跡と展望」

#### 【社会活動】

- ・ 長野県看護協会研修「新人看護職員研修（院内研修）の企画立案と運用」講師
- ・ 長野県看護協会研修「新人看護職員研修の評価方法と結果のフィードバック」講師

#### 【学内教育活動】

学 部：看護研究法

博士前期課程：看護学研究法, 看護教育学, 基礎看護学特論, 基礎看護学援助論 I, 基礎看護学援助論 II, 基礎看護学特別演習

博士後期課程：看護学研究法 I, 看護学教育論, 看護教育学特論

#### 【学内委員会等の活動】

教学委員会委員

看護教育学研究推進コース, 看護学実習指導者研修会講師

#### 【外部資金獲得】

- 1) 舟島なをみ (研究代表者)  
中山登志子, 上國料美香, 横山京子, 植田満美子 (2019~2023) : 医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の拡充と普及, 科学研究費助成事業 (基盤研究 B)
- 2) 舟島なをみ (研究代表者)  
中山登志子, 山下暢子, 服部美香, 小澤弘明, 白川優治 (2018~2022) : 問題診断克服型 FD モデルの開発 - 教員の研究指導能力向上を目指して, 科学研究費助成事業 (挑戦的研究萌芽)
- 3) 亀岡智美 (研究代表者)  
舟島なをみ, 金谷悦子, 中山登志子, 永野光子 (2020~2024) : 「看護学教員のための倫理的行動改善向上 FD プログラム」の開発と普及, 科学研究費助成事業 (基盤研究 B)
- 4) 植田満美子 (研究代表者)  
舟島なをみ (2019~2021) : 潜在看護師の離職後の経験の解明 - 個別の状況に応じた復職支援提供に向けて -, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 5) 山下暢子 (研究代表者)  
舟島なをみ, 中山登志子 (2018~2022) : 看護学教育授業改善システム (成人期学生用) の開発 - 医療人確保の将来を見据えて -, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 6) 山澄直美 (研究代表者)  
舟島なをみ, 中山登志子 (2018~2021) : 院内教育担当者の能力向上プログラムの開発 - 研修評価に着眼して -, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 7) 中山登志子 (研究代表者)  
舟島なをみ (2018~2022) : 「研究指導能力自己評価尺度 - 看護系大学院修士論文指導用 -」の開発と有効性の検証, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 8) 宮芝智子 (研究代表者)  
舟島なをみ (2018~2022) : 看護学教育における授業改善システム【講義・演習版】の開発, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 9) 永野光子 (研究代表者)  
舟島なをみ, 鈴木美和 (2018~2021) : 訪問看護師としての倫理的行動自己評価尺度の開発, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

10) 上國料美香 (研究代表者)

舟島なをみ (2017～2021) : 病棟看護師の患者教育能力向上を支援する教育プログラムの開発と有効性に関する研究, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

伊豆上 智子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(2件)
  - 1) 秋山 智弥, 木村 チヅ子, 中西 睦子, 他 23 名 (2021. 4) : "看護管理学習テキスト第 3 版第 2 巻看護サービスの質管理 2021 年版, 第 6 章 看護サービスの質管理と記録 論点 2: 臨床現場の看護情報の特徴と活用", 日本看護協会出版会(東京)
  - 2) 荒井 俊行, 伊豆上 智子, 井上 智子, 他 13 名 (2021. 11) : "看護業務をめぐる法律相談, 自らの病の治療を受けながら看護職を続けるときの支援は, 他 17 題", 新日本法規出版株式会社(東京)
4. 学会発表(1件)
  - 1) 伊豆上 智子(2021. 8) : A 大学看護学士課程の授業科目「リーダーシップ論」を履修した学生が捉えたりリーダーシップ, 第 25 回日本看護管理学会学術集会(神奈川県)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 長野県看護協会 2021 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「質管理Ⅱ(看護サービスの質管理)」講師
- ・ 伊豆上 智子. (2021). 【論文検索は難しくない うまくいくコツ、教えます!】よく使われる論文データベース一覧. Expert Nurse 37(5), 46-51

【学内教育活動】

学 部：専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護管理

博士前期課程：看護学特別研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

紀要委員会委員長, 入試・広報委員会副委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援部門長

【外部資金獲得】

なし

## 岡村典子

### 1. 原著論文(1件)

- 1) 岡村典子(2022. 2) :副看護師長の中堅看護師への関わりの実際と関わりの背景にある思い, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 72 (1) , pp79 - 85 (査読有)

### 2. その他論文(1件)

- 1) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子(2021. 6) :医療観察法病棟管理者の勤務計画表作成における所要時間と支援の認識に関する実態調査, 日本精神保健看護学会誌, 30 (1) , pp59 - 65 (査読有)

### 3. 著書(なし)

### 4. 学会発表(2件)

- 1) 山岸美奈子, 岡村典子(2021. 12) :パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS®)における新人看護師教育の現状と課題に関する文献研究, 第41回日本看護科学学会学術集会(愛知県(オンライン))
- 2) 川島良子, 岩永喜久子, 岡村典子, 谷内田潤子, 山岸美奈子(2021. 12) :A大学の学生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価, 第41回日本看護科学学会学術集会(愛知県)

### 5. その他の研究活動(1件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子:クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究 一看護基礎教育プログラムの構築をめざして一, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護技術学会
- ・ 日本カウンセリング学会
- ・ 日本カウンセリング学会カウンセリング心理士会
- ・ 日本心身医学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 仏教看護・ビハーラ学会
- ・ 東京医科歯科大学お茶の水医学会
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ お茶の水看護学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会 査読委員
- ・ 第52回(2021年度)日本看護協会学術集会抄録選考委員

#### 【社会活動】

- ・ 新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー
- ・ 新潟県厚生連主催「看護教育研修Ⅲ リーダーシップ研修」, 講師
- ・ 新潟県看護職員「臨地実習指導者養成講習会」講師, 担当科目;実習指導方法論 カンファレンスでの指導
- ・ 新潟県看護教員養成講習会運営委員会 運営委員

#### 【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, ライフステージと看護  
博士前期課程：看護理論, 基礎看護学看護援助論Ⅰ, 基礎看護学特別演習, 基礎看護学特別研究, 基礎看護学特別論, フィジカルアセスメント, 看護研究法, 看護コンサルテーション論, がん看護学特別演習Ⅰ  
博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長, 教務委員会副委員長, ハラスメント防止特別委員会委員, 自己点検・評価特別委員会委員, 教学委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員, 看護研究交流センター特別研究部門長  
ハンドマッサージ, 茶道サークル顧問

#### 【外部資金獲得】

- 1) 岡村典子 (研究代表者)  
(2017～2022)：感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

川島良子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 川島良子、西田絵美、三尾亜喜代、加藤明美、馬場美幸(2022. 2) : 看護基礎教育における看護技術教育に関する文献検討, THE Kitakanto Medical Journal, 72(1), pp101 - 112 (査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 川島良子、岩永喜久子、岡村典子、谷内田潤子、山岸美奈子(2021. 12) : A大学の学生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価, 日本看護科学学会(愛知県(オンライン))
- 2) 川島良子、西田絵美、三尾亜喜代、加藤明美、馬場美幸(2021. 11) : 看護基礎教育における看護技術教育に関する文献検討, 聖路加看護学会(東京(オンライン))
- 3) 川島良子、西田絵美(2021. 11) : 看護基礎教育における講義・演習で学生が学んだことに関する文献検討, 日本看護学会(新潟(オンライン))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本教師学学会
- ・ 日本協同教育学会
- ・ 北関東医学会
- ・ 聖路加看護学会

【社会活動】

- ・ 愛知県医療療育総合センター中央病院「看護記録の意義について」研修会講師
- ・ 聖路加看護学会 ニューズレター56号

【学内教育活動】

学 部 : 看護学概論, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 専門ゼミナール1, 専門ゼミナール2, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 災害時看護特別委員会委員, 実習委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

谷内田潤子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
  - 1) 川島良子、岩永喜久子、岡村典子、谷内田潤子、山岸美奈子(2021.12) : A 大学の学生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価, 日本看護科学学会(愛知県(オンライン))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本慢性看護学会
- ・ 日本糖尿病学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし



山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 山岸美奈子, 岡村典子(2021. 12) : パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS<sup>®</sup>)における新人看護師教育の現状と課題に関する文献研究, 第41回日本看護科学学会学術集会(愛知県(オンライン))
  - 2) 川島良子, 岩永喜久子, 岡村典子, 谷内田潤子, 山岸美奈子(2021. 12) : A大学の学生が基礎看護学実習終了までに学んだ看護技術の自己評価, 日本看護科学学会(愛知県(オンライン))
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡山典子, 坂田智佳子, 高柳智子 : クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究—看護基礎教育プログラムの構築を目指して—, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 地域の母子保健にかかわる多職種が望む次世代の小児看護師に備えてほしいこと

【学内教育活動】

学 部 : 看護援助論Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護援助論Ⅱ, 看護学概論

博士前期課程 : フィジカルアセスメント

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員

学年担任, 合唱、ヘアドネーションサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

山田彩乃

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護学技術演習Ⅰ, 基礎看護学技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 看護援助論Ⅱ, ライフステージと看護, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護研究法

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

## 石田和子

### 1. 原著論文(5件)

- 1) 渡邊たつよ, 上野恵美子, 石田和子(2021.3)(前年度未発行):よりよく生きるプロセスに関する研究(C型慢性肝炎由来肝細胞がん患者のインタビューより, 伝統医療看護連携研究, 2(2), pp74-84(査読有))
- 2) 石原千晶, 石田和子, 細川舞, 他(2021.8):末梢神経障害に伴うがん患者に対するチーム医療における多職種への認識と行動, The kitakanto Medical Journal, 71(3), pp177-186(査読有)
- 3) 高橋絹代, 高柳智子, 石田和子(2021.12):臓器提供の本人意思の尊重と家族による代理意思決定の支援, 日本臨床腎移植学会誌, 9(2), pp171-178(査読有)
- 4) 関谷めぐみ, 酒井禎子, 石田和子(2022.3):術後肺がん患者が内服化学療法を受けながら生活していくことへの意味づけ, 新潟県立看護大学紀要, 11, pp8-18(査読有)
- 5) 山田希, 石田和子(2022.3):経口抗がん薬治療を受ける高齢者のストレス・コーピング, 日本がん看護学会誌, 36, pp44-54(査読有)

### 2. その他論文(なし)

### 3. 著書(なし)

### 4. 学会発表(6件)

- 1) 高池和美, 樺澤三奈子, 石田和子(2022.2):緩和ケアの提案を受けた再発がん患者が最期の療養場所を決めるまでの心理的変化, 第36回日本がん看護学会(横浜)
- 2) 岩本舞, 吉野真由美, 捧勇人, 石田和子(2022.2):「死にたいくらい」つらい痛みを抱える乳がん患者への看護介入-村田理論でスピリチュアルペインに焦点をあてて-, 第36回日本がん看護学会(横浜)
- 3) 斎藤琴子, 樺澤三奈子, 石田和子(2022.2):終末期がん患者を支援する訪問看護師の困難と対処-人生最期の療養場所選定の支援-, 第36回日本がん看護学会(横浜)
- 4) 捧勇人, 吉野真由美, 岩本舞, 石田和子(2022.2):「腰のつらさ」を訴えている非小細胞肺癌患者に対する症状マネジメント-IASM理論を用いた介入の実践-, 第36回日本がん看護学会(横浜)
- 5) 鴨井美雪, 石田和子(2022.2):オキサリプラチンによる末梢神経障害を有する寒冷地に住む外来がん患者の困難と対処, 第36回日本がん看護学会(横浜)
- 6) 杉山潤, 酒井禎子, 石田和子(2022.2):緩和ケア病棟に入院しているがん患者の「食べること」の意味づけ, 第36回日本がん看護学会(横浜)

### 5. その他の研究活動(1件)

- 1) 小林綾子, 樺澤三奈子, 石岡幸恵, 坂田智佳子, 石田和子:新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 -腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 評議員
- ・ 日本がん看護学会 査読委員
- ・ 日本がん看護学会 地方分科会
- ・ 日本死の臨床研究会 関東支部委員会
- ・ 新潟がん看護研究会
- ・ 群馬緩和ケア研究会

#### 【社会活動】

- ・ エルネック 指導者

### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 成人看護学実習, 成人看護学演習, 総合実習, 総合科目, ライフステージと看護, 家族看護論

博士前期課程：看護学研究法, 看護倫理特論, 看護コンサルテーション論, 病態生理学, 臨床薬理学, がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, がん看護学特別演習Ⅰ, がん看護学特別演習Ⅱ, がん看護学特別演習Ⅲ, がん治療看護介入演習Ⅰ, がん治療看護介入演習Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅰ, がん高度実践看護学実習Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：成人・がん看護学特論

### 【学内委員会等の活動】

教学委員会委員長, 図書委員会副委員長, 入学委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員

### 【外部資金獲得】

- 1) 坂田智佳子 (研究代表者)  
石田和子 (2021～2023)：在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 2) 渡邊たつよ (研究代表者)  
北村千章 石田和子 (2017～2022)：潰瘍性大腸炎患者のその人らしさを支える総合支援アセスメントモデルの開発とその検証, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 3) 石原千晶 (研究代表者)  
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也 (2020～2022)：標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 4) 川田智美 (研究代表者)  
佐藤充子 石田和子 (2019～2021)：がん化学療法患者の社会生活を支えるコントロール感覚獲得支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 5) 渡邊千春 (研究代表者)  
石田和子 (2018～2021)：通院治療を継続する高齢独居がんサバイバーが持つ生活調整力の解明, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 6) 石田和子 (研究代表者)  
石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也 (2017～2021)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

高柳 智子

1. 原著論文 (1 件)

- 1) 高橋絹代 高柳智子 石田和子 (2021. 12) : 臓器提供の本人意思の尊重と家族による代理意思決定の支援, 日本臨床腎移植学会誌, 9 (2), pp171 - 178 (査読有)

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (1 件)

- 1) 高柳智子 (2021. 8) : 車椅子移乗時に転倒した回復期脳卒中患者の移乗自立続行の可否を判断する看護師の視点, 日本看護研究学会第 47 回学術集会 (仙台 (ハイブリッド開催))

5. その他の研究活動 (なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本リハビリテーション看護学会 査読委員

【社会活動】

- ・ 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員
- ・ 上越教育大学 研究倫理倫理審査委員会委員
- ・ 上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・ 3 次救急医療施設における早期警告スコア (National Early Warning Score:NEWS) 活用の有効性についての検証
- ・ 医学と生物学の論文査読
- ・ 出前授業 新潟県立十日町総合高等学校

【学内教育活動】

学 部 : ライフステージと看護, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学 III, 成人看護学 IV, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 看護倫理, 健康医療政策論, 総合実習, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II

博士前期課程 : 看護学研究法

博士後期課程 : 看護学研究法 II, 成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長, 入学委員会委員長, 教学委員会副委員長, 新カリキュラム検討委員会委員長, 博士後期課程を担当する専任教員選考・博士論文審査内規 WG 委員  
研究推進委員会研修会講師

【外部資金獲得】

- 1) 高柳智子 (研究代表者)  
(2018~2022) : 『回復期脳卒中患者の病棟生活 21 時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発』, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 2) 大庭 重治 (研究代表者)  
八島猛, 留目宏美, 境原三津夫, 佐藤将朗, 池川茂樹, 坂口嘉菜, 葉石光一, 笠原芳隆, 大久保明子, 永吉雅人, 上野光博, 高柳智子 (2020~2023) : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 B)

## 酒井禎子

### 1. 原著論文(2件)

- 1) 酒井禎子(2022.2):雪国で暮らす高齢がん患者の療養生活, The KITAKANTO Medical Journal, 72(1), pp59-70(査読有)
- 2) 関谷めぐみ, 酒井禎子, 石田和子(2022.3):術後肺がん患者が内服化学療法を受けながら生活していくことへの意味づけ, 新潟県立看護大学紀要, 11, pp8-18(査読有)

### 2. その他論文(1件)

- 1) 酒井禎子(2021.6):【緩和ケアに活かす ICT Information and Communication Technology】(Section V-1)緩和ケア×IT×教育 ELNEC-J(End-of-Life Nursing Education Consortium Japan), 緩和ケア, 31, 6月増刊, pp128-131(査読無)

### 3. 著書(1件)

- 1) 田村恵子編集/酒井禎子, 他47名(2021.12):"新体系看護学全書 経過別成人看護学4 終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア(第2版), 第2章 終末期にある患者・家族の理解 I. 終末期にある患者の理解-C終末期にある患者の特徴", メヂカルフレンド社(東京都)

### 4. 学会発表(4件)

- 1) 相澤達也, 酒井禎子, 佐居由美, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子(2021.10):緩和ケア領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケア, 日本緩和医療学会第3回関東・甲信越支部学術大会(WEB開催(新潟))
- 2) 酒井禎子, 相澤達也, 佐居由美, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子(2021.12):回復期看護において熟練看護師が実践する「安楽なケア」, 第41回日本看護科学学会学術集会(WEB開催(愛知))
- 3) 佐居由美, 相澤達也, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子, 酒井禎子(2021.12):各看護領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケアのモデル化~包括的安楽ケアモデルの構築に向けて~【交流集会】, 第41回日本看護科学学会学術集会(WEB開催(愛知))
- 4) 酒井禎子(2022.2):看護師が捉える化学放射線療法を行う高齢食道がん患者の看護援助における課題-「食べて動ける力」への支援に焦点をあてて-, 第36回日本がん看護学会学術集会(現地開催(横浜)+WEB開催)

### 5. その他の研究活動(1件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子:クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究-看護基礎教育プログラムの構築をめざして-, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本がん看護学会 代議員
- ・ 日本緩和医療学会 代議員(2022年1月31日まで), ELNEC-J WPG 員長
- ・ 日本死の臨床研究会 世話人
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 日本緩和医療学会第3回関東・甲信越支部学術大会

#### 【社会活動】

- ・ 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会委員、実行委員会委員長
- ・ 一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 看護部特任教育コーディネーター
- ・ 労働者健康安全機構 新潟労災病院看護部「意思決定支援」研修講師
- ・ 2021年度 ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修会ファシリテーター
- ・ 第25回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師・ファシリテーター
- ・ 横浜市立大学エクステンション講座 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム オンライン
- ・ 地域課題研究「関節リウマチ患者における手洗いの実態調査」「整形外科疾患を持つ患者の就労支援に対するニーズ」「三次救急を担うA病院におけるがん放射線療法看護の現状」
- ・ 新潟いのちの物語をつむぐ会第6回例会「みんなではじめよう“人生会議”」 実行委員

#### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ，成人看護学Ⅲ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，看護倫理

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅰ，がん看護学特別演習Ⅲ，がん治療看護介入演習Ⅰ，がん治療看護介入演習Ⅱ，がん高度実践看護実習Ⅰ，がん高度実践看護実習Ⅱ，がん高度実践看護実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長，教務委員会委員，国家試験対策・就職委員会委員，ハラスメント防止特別委員会委員  
VSP サークル顧問，国家試験対策セミナー講師

#### 【外部資金獲得】

- 1) 酒井禎子 (研究代表者)  
(2018～2022)：化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築，科学研究費助成事業（若手研究）
- 2) 本城由美 (研究代表者)  
山田雅子、中山和弘、酒井禎子、小高恵実、桃井雅子、相澤達也、西本葵 (2018～2022)：実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発，科学研究費助成事業（基盤研究B）
- 3) 酒井禎子 (研究代表者)  
坂田智佳子、樺澤三奈子 (2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価，科学研究費助成事業（基盤研究C）

樺澤三奈子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 高池和美、樺澤三奈子、石田和子(2022.2)：緩和ケアの提案を受けた再発がん患者が最期の療養場所を決めるまでの心理的变化，第36回日本がん看護学会学術集会(神奈川県横浜市)
  - 2) 齋藤琴子、樺澤三奈子、石田和子(2022.2)：終末期がん患者を支援する訪問看護師の困難と対処-人生最期の療養場所選定の支援-，第36回日本がん看護学会学術集会(神奈川県横浜市)
5. その他の研究活動(2件)
  - 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子：新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 -腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-，令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
  - 2) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子：“クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究-看護基礎教育プログラムの構築をめざして-”，令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 令和3年度糸魚川地域看護職員確保・定着推進会議 アドバイザー
- ・ 外来透析通院患者の透析治療継続における困難と取り組み
- ・ 桜蓮祭における2021年度リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた in 新潟県立看護大学 「乳がんセルフチェック」啓発動画発表

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅱ，成人看護学Ⅲ，成人看護学Ⅳ，成人看護学演習，成人看護学実習（慢性・回復期看護実習），専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習（成人看護学 がん看護・緩和ケア実習），健康医療政策論，国際看護演習

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ，がん看護学特論Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅲ，がん治療看護介入演習Ⅱ，がん高度実践看護学実習Ⅰ，がん高度実践看護学実習Ⅱ，がん高度実践看護学実習Ⅲ，がん高度実践看護学実習Ⅳ，がん高度実践看護学実習Ⅳ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長，研究推進委員会委員，倫理委員会委員  
学年担任，

【外部資金獲得】

- 1) 樺澤三奈子(研究代表者)  
森一恵(2017～2022)：補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価，科学研究費助成事業(基盤研究C)



2) 大石ふみ子 (研究代表者)

白鳥さつき, 葉山有香, 南 裕美, 樺澤 三奈子 (2017~2022) : 化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害に対する客観的評価を用いた看護援助の検討, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

3) 酒井禎子 (研究代表者)

樺澤三奈子, 坂田智佳子 (2021~2024) : 地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

小林綾子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 小山洋恵, 田中寛美, 廣田美幸, 廣田沙綾香, 高塚麻由, 小林綾子(2021. 11) : ケーススタディ研修における卒後2年目看護師の気づき, 看護展望, 46(13), pp1259 - 1265(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 小林綾子(2021. 9) : 血液透析歴20年以上の高齢患者の栄養状態と食事摂取状況の実態, 第15日本慢性看護学会学術集会(Web開催)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 小林綾子, 樺澤三奈子, 石岡幸恵, 坂田智佳子, 石田和子 : 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 - 腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて -, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市食育推進委員
- ・ 令和3年度 上越教育大学・新潟県立看護大学連携講座「長寿の秘訣! ~健康で豊かに生きる~」講師
- ・ 虚血性心疾患を併発した糖尿病患者の療養生活への思い
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた 乳がん予防啓発活動スライドのナレーション

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

紀要委員会副委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援副部門長  
保健指導員, よさこいサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

石原千晶

1. 原著論文(1件)

- 1) 石原千晶, 石田和子, 細川舞, 京田亜由美, 望月留加, 藤本桂子, 神田清子(2021.8): 末梢神経障害を伴うがん患者に対するチーム医療における多職種の認識と行動, THE KITAKANNTO MEDICAL JOURNAL, Vol. 71 No. 3, pp177 - 186 (査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本ストーマ・排泄プロモーション学会
- ・ 日本セーフティプロモーション学会
- ・ 群馬がん看護研究学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 新潟医学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 災害看護活動論, 看護研究法  
博士前期課程：がん高度実践看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会副委員長, 図書委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)  
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020~2022): 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 石田和子(研究代表者)  
石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也(2017~2021): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

石岡 幸恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 小林綾子, 樺澤三奈子, 石岡幸恵, 坂田智佳子, 石田和子: 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴法質問票により把握される推定食塩摂取量との関連 –腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて–, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 第9回 ELNEC-J 運営、講師

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅳ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護倫理, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習

博士前期課程：がん高度実践看護実習ⅠⅡⅢⅣⅤ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 衛生委員会委員

学年担任, ダンスサークル顧問, かたばみの家講習会講師

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)  
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020~2022): 子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 石田和子(研究代表者)  
石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也(2017~2021): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

相澤 達也

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
  - 1) 相澤達也, 酒井禎子, 佐居由美, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子(2021.10): 緩和ケア領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケア, 日本緩和医療学会 第3回関東・甲信越支部学術大会(オンライン形式)
  - 2) 酒井禎子, 相澤達也, 佐居由美, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子(2021.12): 回復期看護において熟練看護師が実践する「安楽なケア」, 第41回日本看護科学学会学術集会(WEB開催)
  - 3) 佐居由美, 相澤達也, 安藤和美, 小高恵実, 西本葵, 桃井雅子, 酒井禎子(2021.12): 各看護領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケアのモデル化～包括的安楽ケアモデルの構築にむけて～, 第41回日本看護科学学会学術集会(WEB開催)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子: クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究-看護基礎教育プログラムの構築をめざして-, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本緩和医療学会 会員

【社会活動】

- ・ “3次救急医療施設における一般病棟での急変事例の現状分析
- ・ 一早期警告スコア(National Early Warning Score)を用いた後方視的調査から一”
- ・ 第9回ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学IV, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習(成人看護学), 専門ゼミナールI, 専門ゼミナールII

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員  
屋外球技サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)  
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020~2022): 子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 本城由美(研究代表者)  
山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也, 西本葵(2018~2022): 実践知を基盤と

- した「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 3) 石田和子(研究代表者)  
石田順子, 石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 相澤達也(2017~2021): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

## 高橋絹代

### 1. 原著論文(1件)

- 1) 高橋絹代 高柳智子 石田和子(2021.12)：臓器提供の本人意思の尊重と家族による代理意思決定の支援 日本臨床腎移植学会誌, 9(2), pp172 - 178(査読有)

### 2. その他論文(なし)

### 3. 著書(なし)

### 4. 学会発表(なし)

### 5. その他の研究活動(なし)

#### 【学会等における活動】

- ・日本移植学会
- ・第56回日本移植学会

#### 【社会活動】

- ・臓器提供時の各段階における必要な看護についての検討～家族ケアの看護介入を振り返って～
- ・グリーフケアとしてのエンゼルメイク(柿崎病院)デモンストレーション

#### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅳ, 成人看護 急性期実習, 成人看護学 演習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

入試広報委員委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

#### 【外部資金獲得】

なし

大久保明子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子, 野口裕子(2022. 3): 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験, 新潟県立看護大学紀要, 11, pp1 - 7 (査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子: 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・ 仏教看護・ビハーラ学会 理事・編集委員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本小児がん看護学会 会員
- ・ 日本家族看護学会 会員
- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本小児保健協会 会員
- ・ 日本臨床死生学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 役員

#### 【社会活動】

- ・ 新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・ 上越市自立支援協議会 委員 重症・医ケア部会 部会長
- ・ 妙高市教育支援委員会 委員
- ・ “厚生労働省国庫助成金 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業, 「子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する調査研究」研究会委員”
- ・ 令和3年度療育支援事業部会 研修会講師「障害をもつ子どもの親の思いに添う支援」
- ・ 看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ”子どものホームケア”」真行寺幼稚園
- ・ 看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ”子どものホームケア”」児童養護施設若竹寮
- ・ 看護研究交流センター出前講座「子どもの危険! 事故防止と応急手当」下門前保育園
- ・ いのちを語る会(子どもを亡くした遺族の会)
- ・ 重心・医ケア児の地域生活を考える会
- ・ 当院の退院支援の評価からみえた課題-退院支援評価表を分析して-

#### 【学内教育活動】

学 部: ライフステージと看護, 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 家族看護論, 総合実習

博士前期課程: 看護研究法, 看護学領域特別研究

博士後期課程: なし



【学内委員会等の活動】

教務委員会委員長, 入学委員会副委員長, 教学委員会委員, 自己点検・評価特別委員会委員, 外部評価特別委員会委員

【外部資金獲得】

1) 大庭重治 (研究代表者)

葉石光一, 笠原芳隆, 八島猛, 佐藤将朗, 坂口嘉菜, 上野光博, 留目宏美, 池川茂樹, 境原三津夫, 大久保明子, 高柳智子, 永吉雅人 (2020~2022) : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 B)

2) 稲垣応顕 (研究代表者)

アントン・セビリア, 坂井祐円, 大久保明子, 得丸定子, 西平直, 小西達也 (2020~2022) : 「いのち教育」の理論とその実践方法に関する臨床教育学的考察, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

山田 恵子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(2件)

- 1) 山田 恵子(2021.8):がんサポ喫茶止まり木-はじめの一步-, Amazon Kindle(電子版)
- 2) 山田 恵子(2022.3):がんサポ喫茶止まり木-春の訪れと共に-, Amazon Kindle(電子版)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子:救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本救急看護学会 評議委員
- ・ 日本救急看護学会 ファーストエイド委員
- ・ 日本小児救急医学会
- ・ 日本小児保健協会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本保育園保健協議会
- ・ 日本医療教授システム学会
- ・ 第23回日本救急看護学会学術集会 ファーストエイド委員会

【社会活動】

- ・ 全国がん患者団体連合会がん教育外部講師
- ・ グリーフサポートあいちこどもの森監事
- ・ 長久手いのちの学校プロジェクト実行委員
- ・ おひさまパントリー代表(上越市地域活動事業:ひとり親またはひとり暮らしの学生支援)

【学内教育活動】

学 部:小児看護学Ⅰ,小児看護学Ⅱ,小児看護学演習,小児看護学実習,看護研究法,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程:なし

博士後期課程:なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員,学生委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員

コロナ禍における日用品を代用した応急手当(出前講座),子どもを担当する看護師さんのお仕事(中学校への出前講座)

【外部資金獲得】

なし

野澤祥子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本小児看護学会
- ・日本小児保健協会
- ・日本成人先天性心疾患学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任, こども食堂スタッフサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 野澤祥子(研究代表者) (2018～2023) :成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発, 科学研究費助成事業(若手研究)

伊藤 ひかる

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・看護実践学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学年担任保健指導員 100 徒歩サークル顧問

【外部資金獲得】

なし

小林 宏至

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本新生児看護学会 会員
- ・日本災害看護学会 役員
- ・新潟小児看護研究会 会員

【社会活動】

- ・新潟県 NICU 医療的ケア指導マニュアル委員会委員

【学内教育活動】

学 部：小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

1) 田中美央(研究代表者)

小林宏至、遠山潤、金子孝之、住吉智子、佐藤由紀子、和田雅樹、渡邊流理也、齋藤智子(2021～2024)：  
新潟市における医療的ケア児の災害支援基盤強化の検討, 新潟市医師会地域医療研究助成

西田絵美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 川島良子、西田絵美、三尾亜喜代、加藤明美、馬場美幸(2022. 2) :看護基礎教育における看護技術教育に関する文献検討, The KITAKANTO Medical Journal, 72 (1), pp101 - 112 (査読有)

3. 著書(1件)

- 1) 西田絵美(2022. 1) :ケアの気づき—メイヤロフの「ケア論」がひらく世界, ゆみる出版(東京)

4. 学会発表(4件)

- 1) 西田絵美、上田恵、五十畑麻奈美(2022. 3) :助産学実習における「助産師としてのアイデンティティ形成シート」導入の試み—受け持ち産婦との関わりを内省・洞察した実習記録の評価—, 日本助産学会(オンライン)
- 2) 上田恵、中島通子、西田絵美(2022. 3) :レズビアンを自認する女性が同性パートナーとの間に自身の子どもをもつまでにたどる意思決定のプロセス, 日本助産学会(オンライン)
- 3) 川島良子、西田絵美(2021. 11) :看護基礎教育における講義・演習で学生が学んだことに関する文献検討, 日本看護学会(オンライン)
- 4) 川島良子、西田絵美、三尾亜喜代、加藤明美、馬場美幸(2021. 11) :看護基礎教育における看護技術教育の現状に関する文献検討, 聖路加看護学会(オンライン)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・上越市共同参画審議会 委員
- ・出生直後からファミリーセンタードケアの介入を受けた超早産児の母親が抱く思い
- ・教育実践学会の論文査読

【学内教育活動】

学 部 : 人間社会と倫理, ライフステージと看護, 母性看護学Ⅱ, 家族看護論, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 助産学概論, ウィメンズヘルス, 地域母子保健, 助産管理学, 分娩期助産診断・技術学, 産褥・新生児期助産診断・技術学, 助産技術学演習, 助産学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学特論, 母性看護学特別演習, 看護倫理特論

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 実習委員会委員, ハラスメント相談員相談員, FD 委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員, 助産学履修選考委員会委員長

【外部資金獲得】

なし

八巻 ちひろ

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：分娩期助産診断・技術学, 産褥・新生児助産診断・技術学, 助産技術学演習, 助産学実習, 専門ゼミナール1, 専門ゼミナール2, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, ウィメンズヘルス, 総合実習, 助産学概論, 地域母子保健

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 助産学履修生選考委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

上田 恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 上田 恵、中島 通子、西田 絵美(2022. 3) : レズビアンを自認する女性が同性パートナーとの間に自身の子どもをもつまでにたどる意思決定のプロセス, 日本助産学会(大阪)
  - 2) 西田絵美、上田恵、五十畑麻奈美(2022. 3) : 助産学実習における「助産師としてのアイデンティティ形成シート」導入の試みー受け持ち産婦との関わりを内省・洞察した実習記録の評価ー, 日本助産学会(オンライン)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子: 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 助産技術学演習, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 助産学実習, Women's Health Care, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 助産学技術演習, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし



五十畑 麻奈美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 西田絵美、上田恵、五十畑麻奈美(2022.3)：助産学実習における「助産師としてのアイデンティティ形成シート」導入の試みー受け持ち産婦との関わりを内省・洞察した実習記録の評価ー, 日本助産学会(オンライン)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

・第15回日本セーフティプロモーション学会 学術大会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：母性看護学演習, 母性看護学実習, 助産学概論, ウィメンズヘルス, 助産技術学演習, 助産学実習, 母性看護学Ⅱ, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

なし

【外部資金獲得】

なし

小野 幸子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
  - 1) 渡邊美樹, 河原畑尚美, 小野幸子(2021.6): 特別養護老人ホームの看護管理者のケア管理能力に関する認識について, 日本老年看護学会第26回学術集会(愛知県(オンライン))
  - 2) 高橋優也(2021.6): 介護老人保健施設看護職の誤嚥性肺炎の予防的ケア現状と課題, 日本老年看護学会第26回学術集会(愛知県(オンライン))
  - 3) 渡邊美樹, 河原畑尚美, 小野幸子(2021.12): 特別養護老人ホームの看護管理者の自己評価から見たケア管理の現状と課題, 第41回日本看護科学学会学術集会(愛知県(オンライン))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会
- ・北日本看護学会
- ・千葉看護学会

【社会活動】

- ・上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院看護師の特定医行為研修管理委員
- ・新潟薬科大学非常勤講師(8コマ: 高齢者政策、介護保険制度)

【学内教育活動】

学 部: 人間社会と倫理, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: 看護学研究法, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特論Ⅲ, 老年高度看護援助論Ⅰ, 老年高度看護援助論Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅲ, 老年高度実践看護学実習Ⅰ, 老年高度実践看護学実習Ⅱ, 老年高度実践看護学実習Ⅲ, 看護学領域別特別研究(3年次生: 90時間, 2年次生: 90時間), 専門分野別課題研究(2年次生 30時間)

博士後期課程: 老年看護学特論, 看護学特別研究(3年次生 30時間)

【学内委員会等の活動】

教学委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)  
河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美(2018~2022): 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 河原畑尚美(研究代表者)  
小野幸子(2019~2022): 看護基礎教育におけるケア倫理教育プログラムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

- 3) 大口洋子 (研究代表者)  
河原畑尚美, 小野幸子 (2020～2022) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のありかた, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)
- 4) 沢田淳子 (研究代表者)  
中山綾子, 小野幸子 (2020～2023) : 特別養護老人ホームにおける WEB 併用ケア管理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

## 原 等子

### 1. 原著論文(1件)

- 1) "Ippei Kawasaki, Shun Harada, Kuniaki Nagai, Noriyuki Ogawa, Hajime Takechi, Naoko Hara, Kyoko Eguchi and Kazuo Kariyama (2021.10)", "Analysis of Latent Factors Underlying Conceptions of People with Dementia and the Effects of Social Resources", Bio Medical Journal of Science & Technical Research, 39 (2), pp31136 - 31143 (査読有)

### 2. その他論文(1件)

- 1) 原等子 (2021.9) : 認知症の人の尊厳を守るために一本人・家族・支援者の意識から, ゆたかなくらし 470, pp16 - 21 (査読無)

### 3. 著書(なし)

### 4. 学会発表(5件)

- 1) 原 等子, 小川 敬之, 荻山 和生, 江口 恭子, 尾之内 直美, 秋田谷 一, 杉山 孝博, 武地 一 (2021.6) : 認知症にかかわる支援者の認知症および認知症ケアに対する認識 認知症の支援者の調査から, 第 22 回日本認知症ケア学会大会(仙台(オンライン))
- 2) 江口 恭子, 原 等子, 鈴木 森夫, 鎌田 松代 (2021.6) : 新型コロナウイルスが認知症の人と家族の暮らしに及ぼす影響 介護家族への自由記載アンケートの分析から, 第 22 回日本認知症ケア学会大会(仙台(オンデマンド))
- 3) 原 等子, 渡辺 香里, 江口 恭子, 武地 一, 小川 敬之, 荻山 和生, 尾之内 直美, 秋田谷 一, 青山 拓夢, 杉山 孝博 (2021.6)  
認知症高齢者の生活場所による家族の介護への思いの比較  
日本老年社会学会第 63 回大会(名古屋(オンデマンド))
- 4) 原 等子, 小野寺 敦志, 奥山 恵理子, 津止 正敏, 宮永 和夫, 長澤 かほる, 森 寛昭, 梅原 早苗, 布施 美幸, 西野 玲子, 内山 順夫, 鎌田 松代, 鈴木 森夫, 認知症関係当事者・支援者連絡会議 (2021.5) : コロナ禍における当事者活動への影響、当事者への影響、活動の工夫、今後の展望 認知症関係当事者・支援者連絡会議 第 21 回日本早期認知症学会学術大会(静岡(ハイブリッド))
- 5) 原等子, 大久保奏, 江口恭子, 小川敬之, 荻山和生, 尾之内直美, 秋田谷一, 青山拓夢, 杉山孝博, 武地一 (2021.6) : 認知症にかかわるケアに関する看護職と介護職の認識の比較, 日本老年看護学会第 26 回学術集会(東京(オンデマンド))

### 5. その他の研究活動(なし)

#### 【学会等における活動】

- ・日本認知症ケア学会
- ・日本老年看護学会
- ・日本看護協会日本看護学会 [在宅看護]
- ・日本認知症ケア学会事例ジャーナル
- ・POTT プロジェクト
- ・日本老年社会学会
- ・日本看護科学学会
- ・新潟口腔ケア研究会
- ・POTT プロジェクト第 5 回 POTT (ぽっと) オンライン学習会 (9/4)
- ・認知症で日本を繋ぐシンポジウム 2021 認知症最新医療とコロナ下での本人・家族の思い (オンライン) (11/7)

## 【社会活動】

- ・国土交通省移動円滑化等評価会議委員
- ・公共交通事業者等における認知症の人への接遇ガイドライン作成のための検討会委員（国土交通省）
- ・教育啓発特定事業の実施に関するガイドライン作成検討会委員（国土交通省）
- ・上越市介護保険運営協議会委員
- ・上越市社会福祉協議会法人後見事業運営委員会委員
- ・新潟県立病院リハビリテーション技師会研修会，認知症の人と家族への支援 認知症の人も家族もその人らしく生きるために 住み慣れた場所で暮らす，県立柿崎病院（7/3，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症の対応を知りたい（初級編）」，上越市東城町2町内会館（7/13，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，名長会，上越市上名柄会館（7/27，90分）
- ・認知症サポーター養成講座 上越市，上越市市民プラザ（7/31，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，南三世代交流プラザ運営協議会，上越市南三世代交流プラザ（8/7，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，JR東日本鉄道OB会直江津支部，上越市レインボープラザ（9/12，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，さわやか女性学級，上越市浦川原地区公民館（9/21，60分）
- ・金谷地区振興協議会 かなや福祉の会 すこやかサロン金谷・オレンジかふえ，「認知症のこと知りたい（入門編） 認知症とともに生きる」，上越市福祉交流プラザ（9/21，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，さわやか女性学級，上越市浦川原地区公民館（9/21，60分）
- ・新潟県立看護大学「高校出前講義」 認知症の人と家族の支援について，三条東高校（10/7，60分）
- ・認知症サポーター養成講座 上越市，上越市福祉交流プラザ（10/9，90分）
- ・認知症サポーターステップアップ講座 上越市，上越市福祉交流プラザ（10/9，60分）
- ・医療法人知命堂病院講演会「認知症に関する基礎編」，上越市知命堂病院（10/11，70分）
- ・医療法人知命堂病院講演会「身体拘束に頼らない看護・介護」，上越市知命堂病院（11/4，70分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，さわやか女性学級，上越市浦川原地区公民館（9/21，60分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症の対応を知りたい（初級編）」，上越市灘地区民生委員児童委員協議会，上越市名田地区総合事務所（10/14，90分）
- ・認知症サポーター養成講座 新潟日報社，上越市オーレンプラザ，知る・学ぶ「福祉・介護・健康 in 上越」（11/3，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい（入門編）」，三和地区公民館，上越市三和地区公民館（11/26，90分）
- ・上越市社会福祉協議会，令和3年度権利擁護推進事業ミニ講座「元気で長生きのおはなし」，上越市総合福祉センター（11/27，90分）
- ・看護研究交流センター出前講座「認知症という病気についてもっと知りたい（中級編）」，上越市シャカ福祉協議会大潟支所，上越市大潟コミュニティプラザ（1/28，60分）
- ・地球家族パートII，ぼ〜れぼ〜れ，公益社団法人認知症の人と家族の会，(498)，2022.1.
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 常任理事
- ・多職種協働で立ち上げた認知症ケア委員会の取り組み

## 【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護 家族看護論，老年看護学Ⅰ，老年看護学Ⅱ，老年看護学演習，老年看護学実習，  
専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：フィジカルアセスメント，老年看護学特論Ⅰ，老年看護学特論Ⅱ，老年高度実践看護援助論Ⅰ，

老年看護特別演習Ⅱ, 老年看護特別演習Ⅲ, 専門分野別課題研究 (CNS), 看護学領域特別研究  
博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 国家試験対策・就職委員会副委員長, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門長, 認知症  
オレンジサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 鈴木森夫 (研究代表者)  
武地一, 原等子, 菊山和生, 江口恭子, 小川敬之, 猪股祥子, 尾之内直美, 伊藤俊彦, 伊藤元子, 渋谷幸子, 渋谷美和, 杉山孝博, 鎌田松代, 辻村康代 (2021~2021): 認知症の人と家族の支援ニーズを踏まえた介護家族支援に関する調査研究事業, 令和3年度老人保健健康増進等事業
- 2) 川井元晴 (研究代表者)  
鈴木森夫, 鎌田松代, 中野篤子, 原等子, 鷺巣典代, 堀部賢太郎, 新藤由美, 粟田俊一郎, 河野結, 粟野悠希, 金子智紀 (2021~2021): 「認知症に関する国際交流プラットフォームの構築及び展開に関する調査研究事業, 令和3年度老人保健健康増進等事業
- 3) 上原喜美子 (研究代表者)  
加藤公則, 原等子, 中村圭子, 帆苺真由美 (2020~2023): 中山間地在宅高齢2型糖尿病患者の治療実態の改善に向けた新たなシステムの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究C)
- 4) 鎌田松代 (研究代表者)  
川井元晴, 小川敬之, 原等子, 鈴木森夫 (2021~2021): 認知症にやさしい地域づくりや、認知症の人の生きがい、行きがい、活がいの場づくりの全国発展, 令和3年度キリン福祉財団助成事業
- 5) 芦野正憲 (研究代表者)  
小川敬之, 鎌田松代, 下坂厚, 杉山孝博, 鈴木森夫, 田部井康夫, 原等子, 山口孝治 (2021~2021): 「認知症こどもサイト」制作, 令和3年度競輪補助事業
- 6) 小野幸子 (研究代表者)  
河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美 (2018~2022): 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究C)

河原畑 尚美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 渡邊美樹, 河原畑尚美, 小野幸子(2021.6):特別養護老人ホームの看護管理者のケア管理能力に関する認識について, 日本老年看護学会第26回学術集会(愛知県(オンライン))
  - 2) 渡邊美樹, 河原畑尚美, 小野幸子(2021.12):特別養護老人ホームの看護管理者の自己評価から見たケア管理の現状と課題, 第41回日本看護科学学会学術集会(愛知県(オンライン))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本看護学教育学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本死の臨床研究会 会員
- ・日本災害看護学会 会員
- ・北日本看護学会 会員
- ・日本感染看護学会 会員
- ・日本循環器看護学会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員
- ・大学病院の緩和ケアを考える会 会員
- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・日本看護管理学会 会員

【社会活動】

- ・上越地域医療対策協議会救急医療・災害時医療専門部会委員
- ・上越市地域包括支援センター運営協議会副委員長
- ・上越市介護保険運営協議会委員
- ・一般社団法人日本看護系大学協議会災害連携教員
- ・高田北城高等学校出前講義「大学で看護学を学ぶということ」講師
- ・つまり地域多職種協働セミナー, 企画委員
- ・新潟薬科大学非常勤講師「介護保険制度と医療福祉サービス」

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 災害看護活動論

博士前期課程：老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年高度看護援助論Ⅰ, 老年高度看護援助論Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅲ, 老年看護学特別研究, 老年高度実践看護学実習Ⅰ, 老年高度実践看護学実習Ⅲ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長, 実習委員会副委員長, 看護研究交流センター地域社会貢献部門長学年担任

【外部資金獲得】

1) 河原畑尚美 (研究代表者)

小野幸子 (2018～2022) : 看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

2) 小野幸子 (研究代表者)

河原畑尚美 原等子 大口洋子 東條紀子 大倉由貴 坪井桂子 山崎尚美 (2018～2022) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

3) 大口洋子 (研究代表者)

小野幸子 河原畑尚美 (2020～2022) : 豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のありかた, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)



大口洋子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会会員
- ・日本ルーラルナーシング学会会員
- ・日本認知症ケア学会会員
- ・日本災害看護学会会員
- ・看護実践学会会員

【社会活動】

- ・町立津南病院運営審議会委員
- ・看護大・上教大公開講座 講師
- ・看護研究交流センター 「第5回看護大いきいきサロン」 講師
- ・CAP・じょうえつ
- ・認知症ケア専門士会
- ・認知症の人と家族の会
- ・女のスペースながおか
- ・エンドオブ・ライフケア

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅱ, 精神看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 公衆衛生看護学演習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 図書委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 大口洋子(研究代表者)  
小野幸子 河原畑尚美(2020～2022)：豪雪地域に暮らす後期高齢者のストレングスを活かした自助・互助のありかた, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 小野幸子(研究代表者)  
河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美(2018～2022)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

大倉由貴

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員

【社会活動】

- ・認知症の人と家族の会
- ・車椅子修理と寄付の活動

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅱ, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 老年看護学演習  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, ハラスメント相談員, 先駆的学習支援部門 (交流センターのほうに記入できないため)  
委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)  
河原畑尚美、原等子、大倉由貴、大口洋子、東條紀子、坪井桂子、山崎尚美(2018～2022)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

東條紀子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 木村恵美, 牧和久, 堀克也, 早川由紀美, 黒崎祐也, 東條紀子(2021.10): A病院救急外来受診後の患者への救急外来看護師による帰宅時支援の実際, 第23回日本救急看護学会学術集会(オンライン開催)
  - 2) 堀克也, 木村恵美, 牧和久, 早川由紀美, 黒崎祐也, 東條紀子(2021.10): 帰宅時支援において救急外来看護師が抱く不安と課題, 第23回日本救急看護学会学術集会(オンライン開催)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学学会(会員)
- ・日本老年看護学会(会員)
- ・日本在宅ケア学会(会員)
- ・日本難病看護学会(会員)
- ・日本救急看護学会(会員)

【社会活動】

- ・A病院救急外来受診後の患者への救急外来看護師による帰宅時支援の実際

【学内教育活動】

学 部：総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 学生委員会委員  
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)  
河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美(2018~2022): 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

## 長谷川雅美

### 1. 原著論文(1件)

- 1) 安達寛人 長谷川雅美(2022.3): 自殺再企図を繰り返さずに生活を継続しているうつ病者のストレンダス, 看護実践学会誌, 34(1), pp40 - 51(査読有)

### 2. その他論文

- 1) 安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子, 長谷川雅美(2021.6): 一豪雪地域で生活を継続している統合失調症を持つ人の経験, 日本精神保健看護学会誌, 30, pp40 - 49(査読有)

### 3. 著書(2件)

- 1) 萱間真美 他多数(2021.12): "精神看護学 I 精神保健・多職種のつながり改訂第3版, 周産期の精神の健康", 南江堂(東京)
- 2) 入谷修司 他9名(2022.1): "老年精神医学雑誌特集「高齢期うつの難治性をめぐって」高齢期うつの予防と非薬物的アプローチ", ワールドプランニング(東京)

### 4. 学会発表(3件)

- 1) 長谷川雅美(2021.10): Factors contributing to the resilience of people with Bipolar Disorders who maintain their occupations despite recurring symptoms, 21st WPA World Congress of Psychiatry (Cartagena, Colombia (on line))
- 2) 長谷川雅美(2021.7): うつ病看護ガイドライン「老年期のうつ病看護」を担当して, 第18回日本うつ病学会(横浜市 神奈川県 (on line))
- 3) 長谷川雅美(2021.7): うつ病看護研修会: ガイドラインに基づく講義と事例検討, 第18回日本うつ病学会(横浜市 神奈川県 (on line))

### 5. その他の研究活動(1件)

- 1) 安達寛人, 船山健二, 長谷川雅美: 双極性障害者家族の困難と対処の実例, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・日本看護系大学協議会 会員
- ・日本うつ病学会学会 評議員
- ・日本うつ病学会学会双極性障害委員会 委員
- ・日本うつ病学会学会倫理委員会 委員
- ・日本精神保健看護学会 評議員
- ・日本精神保健看護学会 査読委員
- ・日本看護研究学会 査読委員
- ・日本周産期メンタルヘルス学会 顧問
- ・"第18回日本うつ病学会MD大会企画シンポジウム10  
うつ病看護ガイドラインの目指すもの -現状と今後の課題- シンポジスト"
- ・"第18回日本うつ病学会MD委員会企画シンポジウム [多職種連携委員会]  
地域におけるメンタルヘルス ~誕生からターミナルケアまで~"
- ・"第18回日本うつ病学会MDワークショップ1  
うつ病看護研修会: ガイドラインに基づく講義と事例検討 シンポジスト"

#### 【社会活動】

- ・上越市自殺対策連携会議委員
- ・石川県看護協会実習指導者講習会講師

- ・日総研出版「プロセスレコード」講師
- ・上越市高齢者自殺予防研修会講師
- ・うつ病当事者会「ひなたぼっこ」主宰

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ, 国際看護活動論

博士前期課程：精神看護学特論, 看護研究法

博士後期課程：精神看護学特論

【学内委員会等の活動】

教学委員会委員

【外部資金獲得】

1) 櫻井信人(研究代表者)

長谷川雅美(2020～2023)：心的外傷後成長を取り入れた自死遺族支援グループの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

谷本千恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本ルーラルナース学会 第6期評議員
- ・日本看護科学学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本うつ病学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 国際看護論, 総合実習  
博士前期課程：看護倫理特論  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD委員会委員長, 教務委員会委員, 国際交流委員会委員長

【外部資金獲得】

- 1) 谷本千恵(研究代表者)  
河西千秋、大江真吾、塚田久恵、船山健二(2019～2024)：患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

佐々木三和

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 統合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 入試・広報委員会委員, 入学委員会委員, 研究科委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 佐々木三和(研究代表者)(2020～2023)：地域で境界性パーソナリティ障害者を支えるための訪問看護師への支援プログラムの開発, 科学研究費助成事業(若手研究)

船山 健二

1. 原著論文(1件)

- 1) 船山健二(2022.2): 刑務所出所者のヘルスケアニーズ, 日本フォレンジック看護学会誌, 8(2), pp19 - 33(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 船山健二(2021.8): 看護基礎教育テキスト、看護系雑誌からとらえた「受刑者の看護」, 日本フォレンジック看護学会第8回学術集会(大阪(Web併用))

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 安達寛人, 船山健二, 長谷川雅美: 双極性障害者家族の困難と対処の実際, 令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本フォレンジック看護学会 理事・利益相反委員長
- ・日本フォレンジック看護学会 教育推進委員会・渉外委員会

【社会活動】

- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム ファシリテータ
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム ファシリテータ(4月13日)
- ・東京慈恵会教務主任養成講習会(厚生労働省認定)『看護教育開発演習』講師(7月14日)
- ・東京慈恵会医科大学 看護学専攻博士前期課程 基盤創出看護学特論VII「看護職生涯発達論」ゲストスピーカー(7月14日)
- ・日本フォレンジック看護学会教育推進委員会主催精読会プレゼンター「身体はトラウマを記録する」第1部担当(7月19日)
- ・地域生活移行個別支援加算要件の定めによる、医療観察法に基づく通院者、刑務所から出所した障害者等の支援に関する研修会講師(8月16日)
- ・看護研究交流センター出前講座「薬物依存症」講師(10月25日)
- ・治療的司法研究会: 再犯防止から社会参加へ「出所後を見据えた刑務所における処遇-社会参加に向けたケアのありよう」ゲストスピーカー(11月6日)
- ・日本福祉大学社会福祉総合研修センター: 性暴力被害者支援看護職養成プログラム「受刑者、高齢者、障害者、言語・コミュニケーションの障壁を持つ対象者の心理社会的課題」講師(11月27日)
- ・知的障害のある刑務所出所者や触法者に対する地域生活定着支援のためのグループワークファシリテータ(12月28日)
- ・厚生労働省委託事業: 令和3年度地域生活定着支援人材養成研修中級職員研修専門科目「矯正施設における医療とその連携について」講師(講義収録)
- ・新潟保護観察所職員研修「コロナ時代を生きる～感染予防と心身の健康」講師(1月7日)
- ・村上市保健師代表者会議情報交換会「高齢者・障がい者による犯罪・触法行為 支援の現状と課題」講義(1月7日)
- ・よりそいネットおおさか: 2021年度よりそい専門研修「刑務所の中の医療とケア」講師(講義収録)
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム ファシリテータ(1月11日)
- ・厚生労働省委託事業: 令和3年度地域生活定着支援人材養成研修中級職員研修専門科目演習講師(2月7日)
- ・"ウェルネスオープンリビングラボ研究助成「ヴァルネラブルな高齢者の社会参加基盤の整備に関する研究」



リーフレット「扉の中のこころ」ケアのヒント作成「Case1：高齢受刑者のうつ病事例」、「Case2：刑務所出所者の自殺事例」、「精神保健看護学の立場からの解説」を執筆。”

- ・上越地区BBS会 会員
- ・うつ病・双極性障害当事者会「ひなたぼっこ」 スタッフ
- ・新潟トラブルシューターネットワーク 世話人
- ・刑務所出所者、触法障がい者の支援者からの相談や精神障がい者・知的障がい児者の人権擁護や(日本版性暴力対応看護師：SANE-Jとして)性に関する支援者からの相談に対応しています。

#### 【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習(精神看護学), 専門ゼミナーⅠ(精神看護学), 専門ゼミナールⅡ(精神看護学)

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任

#### 【外部資金獲得】

- 1) 船山健二(研究代表者)  
なし(2020～2023)：刑余者のヘルスケアニーズ, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 五十嵐愛子(研究代表者)  
松下年子、日下修一、加藤隆、船山健二、田村勝弘(2020～2022)：刑の一部執行猶予制度下における薬物依存症者の地域連携に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 松本俊彦(研究代表者)  
研究分担者:高橋康史、研究協力者:市川岳仁、中川賀雅、中村正、西井開、船山健二、朴希渣沙、安田恵美(2019～2021)：再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究  
その他
- 4) 金澤真理(研究代表者)  
渡邊賢、徳永元、井口尚樹、大屋未輝、高橋康史、船山健二、安田恵美(2019～2021)：ヴァルネラブルな高齢者の社会参加基盤の整備に関する研究  
その他
- 5) 谷本千恵(研究代表者)  
河西千秋、大江真吾、塚田久恵、船山健二(2019～2024)：患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

安達寛人

1. 原著論文(1件)

1) 安達寛人, 長谷川雅美(2022. 3)

自殺再企図を繰り返さずに生活を継続しているうつ病者のストレンクス:看護実践学会誌, 34(1), pp40 - 51(査読有)

2. その他論文(2件)

1) 安達寛人, 塩谷幸祐, 田口玲子, 長谷川雅美(2021. 6):一豪雪地域で生活を継続している統合失調症を持つ人の経験,日本精神保健看護学会誌, 30(1), pp40 - 49(査読有)

2) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子(2021. 6):医療観察法病棟管理者の勤務計画表作成における所要時間と支援の認識に関する実態調査,日本精神保健看護学会誌, 30(1), pp59 - 65(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 安達寛人, 船山健二, 長谷川雅美:双極性障害者家族の困難と対処の実際,令和2年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・看護研究交流センター出前講座「こころを病むってどういうこと?」講師 板倉区総合事務所
- ・看護研究交流センター出前講座「こころを病むってどういうこと?」講師 名立区総合事務所
- ・精神科急性期病棟における睡眠改善に向けた取り組み
- ・うつ病当事者の会「ひなたぼっこ」運営

【学内教育活動】

学 部:専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習精神看護学, 精神看護学Ⅱ, 領域別実習精神看護学  
博士前期課程:なし  
博士後期課程:なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員, 公立大学法人新潟県立看護大学創立20周年記念事業実行委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員  
陸上サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

平澤則子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(1件)
  - 1) 平澤 則子(2022.1): "保健学講座 3 公衆衛生看護活動展開論, 難病保健活動 難病患者の地域ケアシステムの構築", メジカルフレンド社(東京)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)
  - 1) 前川絵里子、平澤則子、高林知佳子、野口裕子、久保野裕子、中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会代議員
- ・日本地域看護学会査読委員
- ・日本地域看護学会広報委員会委員
- ・日本糖尿病教育・看護学会 会員
- ・日本在宅ケア学会代議員
- ・日本在宅ケア学会実践・研究助成委員会委員
- ・北関東医学会 会員
- ・日本難病看護学会理事
- ・日本難病看護学会広報・渉外委員会
- ・日本難病看護学会査読委員
- ・日本ルーラルナース学会査読委員
- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・日本母性学会 会員
- ・日本ルーラルナース学会学術集会

【社会活動】

- ・上越市子ども・子育て会議委員長
- ・魚沼市いのちを支える自殺対策推進会議委員
- ・新潟県看護協会看護管理者研修会講師

【学内教育活動】

学 部：地域看護学概論, 総合科目, 公衆衛生看護管理論, 公衆衛生看護論演習, 公衆衛生看護学実習, 総合実習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ  
博士前期課程：看護研究法, 地域看護学援助論Ⅱ, 地域看護学看護学特別研究  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員長, 外部評価特別委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員長, 情報ネットワーク特別委員会委員, 教学委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門長

【外部資金獲得】

1) 野口裕子(研究代表者)

表志津子, 岡本理恵, 平澤則子(2020~2023) : 乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 平澤則子(研究代表者)

野口裕子, 前川絵里子(2021~2024) : 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高林知佳子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 前川絵里子、平澤則子、高林知佳子、野口裕子、久保野裕子、中村義実：公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本健康教育学会
- ・日本生殖看護学会
- ・日本看護管理学会
- ・日本難病看護学会
- ・日本糖尿病教育・看護学会
- ・日本母性衛生学会
- ・北陸公衆衛生学会
- ・新潟医学会

【社会活動】

- ・妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・上越市健康づくり推進協議会委員
- ・妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・富山福祉短期大学非常勤講師
- ・上越市ライフスタイル実行調査委員会
- ・令和3年度第1回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・令和3年度第2回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・令和3年度上越圏域採用4・5年目保健師研修会講師
- ・令和3年度妙高市「食生活改善推進員の会」全体研修会
- ・新潟県立看護大学地域看護学通信(第6号)発行

【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護技術論Ⅰ，公衆衛生看護技術論Ⅱ，対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習，在宅看護論演習，在宅看護論実習，公衆衛生看護管理論，疫学，看護研究法，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

博士前期課程：地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ，地域看護学援助論Ⅱ，地域看護学特別演習

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, 新カリキュラム検討委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 高林知佳子 (研究代表者) (2020～2022) : 主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動促進モデルの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究 C)

野口裕子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
  - 1) 大久保明子, 野口裕子(2022. 3) : 学童・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験, 新潟県立看護大学紀要, 11, pp1 - 7 (査読有)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)
  - 1) 前川絵里子, 平澤則子, 高林知佳子, 野口裕子, 久保野裕子, 中村義実 : 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本災害看護学会 会員
- ・日本地域看護学会 会員
- ・日本子ども虐待防止学会 会員
- ・日本難病看護学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・北関東医学会 会員
- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・日本うつ病学会 会員

【社会活動】

- ・上越市開発審査会委員

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 入試・広報委員会委員, 衛生委員会委員  
研究推進委員会主催研修会講師

【外部資金獲得】

- 1) 野口裕子(研究代表者)  
表志津子, 岡本理恵, 平澤則子(2020~2023) : 乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 平澤則子(研究代表者)  
野口裕子, 前川絵里子(2021~2024) : 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

関 睦美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子: 救急外来で突然に子どもの死を宣告された親のグリーフ, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 妙高市 介護保険運営協議会委員
- ・ 新潟県保健福祉部 看護学生公衆衛生・在宅・母性看護実習指導者研修会 講師
- ・ 介護労働安定センター 福井支社 介護労働講習「発達と老化の理解」 講師
- ・ 介護労働安定センター 福井支社 介護労働講習「健康状態の把握」 講師
- ・ 介護労働安定センター 福井支社 介護労働講習「高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」①講師
- ・ 介護労働安定センター 福井支社 介護労働講習「高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」②講師
- ・ 福井市 ボランティアグループ「あいじつ」

【学内教育活動】

学 部：在宅看護論, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 実習委員会委員, 紀要委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 関睦美(研究代表者)  
成瀬早苗(2019～2024)：介護保険サービス施設でトイレ排泄ケアを行うスタッフの困りごと・負担感の実態, 受託研究(NEC Platforms(株) 開発事業本部)
- 2) 成瀬早苗(研究代表者)  
関睦美(2019～2024)：介護保険サービスにおけるトイレ排泄ケアと必要とする機器の実態, 受託研究(NEC Platforms(株) 開発事業本部)



前川絵里子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 前川絵里子(2021.6): 難病患者のQOLを評価するSEIQoLの活用に向けた課題に関する文献レビュー, 第26回日本難病看護学会学術集会(熊本県)
  - 2) 前川絵里子(2021.9): スフィア(スフィア・プロジェクト、ハンドブック、スフィア基準)に関する文献レビュー, 第23回日本災害看護学会年次大会(新潟県)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 前川絵里子, 平澤則子, 高林知佳子, 野口裕子, 久保野裕子, 中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本難病看護学会 広報・渉外委員会委員
- ・日本地域看護学会 会員
- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本災害看護学会 会員

【社会活動】

- ・新潟県パーキンソン病友の会上越地区
- ・人生最終段階と説明を受けた患者の家族などの代理決定者の葛藤

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, ハラスメント相談員相談員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員  
国家試験対策セミナー(教員向け) 保健師国家試験対策

【外部資金獲得】

- 1) 平澤則子(研究代表者)  
野口裕子, 前川絵里子(2021~2024): 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

小泉 美佐子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
  - 1) 小泉美佐子(2021.11)：「専門性の高い看護職員育成検討会」の立ち上げと“新潟モデル”について, 第52回日本看護学会学術集会(ZOOM)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 学術誌査読委員

【社会活動】

- ・「専門性の高い看護職員育成についての大学意見交換会」主催
- ・「令和3年度第1回新潟県における専門性の高い看護職員育成・活動に係る意見交換会」出席

【学内教育活動】

学 部：総合科目  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

【外部資金獲得】

なし

# 各種委員会等の 活動報告

## 活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	73
自己点検・評価特別委員会	74
情報ネットワーク特別委員会	75
国際交流委員会	77
災害時看護支援特別委員会	79
倫理委員会	80
教務委員会	81
実習委員会	84
学生委員会	85
研究推進委員会	87
FD委員会	89
国家試験対策・就職委員会	91
入試・広報委員会	93
図書委員会	95
紀要委員会	97
教学委員会	98
入学委員会	100

## 令和3年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、○市川克巳、岡村典子、酒井禎子、船山健二、大口洋子  
相談員：西田絵美、徐淑子、前川絵里子、大倉由貴  
事務局：柳澤義治、吉澤恵二

### 2. 活動概要

- (1) 新入の教職員・学部生・大学院生を対象に、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、パンフレットを配布して周知を図った。
- (2) ハラスメント防止の啓発に向けて、名刺サイズのカードを作成し、男女トイレ、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室等に設置した。
- (3) ハラスメント相談のしやすい環境を整えるため、引き続き上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。
- (4) 教職員・学部生・大学院生を対象に、「大学におけるハラスメントについて学ぶ～コロナ禍において気をつけたいことを含めて～」をテーマに、ハラスメント防止研修会を開催した。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) 研修会アンケート結果から研修会自体は高評価であったが、ハラスメントのない大学づくりのための意見は様々で、大学の組織（内部通報制度、相談窓口など）についての意見もあった。
- (2) 委員会にあげるまでに至らないが、学生からの事例相談がある。秘密性は保ちながら、相談は何時でも対応する体制をとっており、引き続きの課題としたい。

## 令和3年度 自己点検・評価特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、○市川克巳、境原三津夫、大久保明子、石田和子、岡村典子  
事務局：吉澤恵二

### 2. 活動概要

#### (1) 教員評価の実施（令和2年度業績に対する評価）

自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行った。その後、7月の教授会において集計結果を報告するとともに、学長表彰者の氏名公表を行い、学長表彰者へ各5万円ずつ個人研究費の追加配分を行った。

#### (2) 令和2年度自己点検評価報告書の編集

自己申告シート及び各種委員会の活動報告を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行い、5月末には本学リポジトリに登録した。

#### (3) 著書・論文数や学会発表数の集計

令和2年度の各教員の著書・論文数や学会発表数を集計し、法人の令和2年度実績値として計上した。

#### (4) 自己申告シートの改善に向けた検討

コロナ禍等の影響で論文・著書の発行が遅れた場合の記載等について検討した。実績のカウント漏れ、ダブルカウントをしないために、対象年度内に実際に発行されたものをその年度の業績とする。3月31日時点で年度内発行が確認できないものは、その年度の業績に含めないこととした。

### 3. 次年度に向けた課題

令和3年度教育研究活動業績の評価・結果分析を行うとともに、令和4年度以降の評価方法や評価項目、評価基準の見直し等を行い、自己申告シートに反映させる。

## 令和3年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎永吉雅人、境原三津夫、平澤則子、市川克巳(事務局長)、柳澤義治(事務局次長)、  
吉澤恵二(教務学生課長)  
事務局：佐藤利和(庶務係長)

### 2. 活動概要

#### (1) 情報セキュリティ対策に関する規程の見直しについて

「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（平成30年度版）」に則り、見直しを行った。その結果、まずは「情報格付け」および「インシデントに対応する学内の組織（CSIRT）」に関する規程を策定する必要があることが明らかとなり、来年度以降策定作業を行うこととなった。また、監査規程の策定については、他の規定を整備してから取り組むこととした。

#### (2) どこカレ管理要項の策定およびどこカレの管理主体について

教務委員会の要請があり、どこカレ管理要項を定めた。あわせて当面、情報ネットワーク実行部会が管理主体とすること決めた。

#### (3) SINET 6 への移行およびデータセンターを東京から長岡に移すことを決定した。

あわせて、接続回線の業者について検討し、現在契約中のNTTの料金が下がることを確認し、変更しないことを決めた。

#### (4) 図書館に配置しているWindows2016版DVDを引き上げて廃棄した。

#### (5) NCN-Net 学内ホームページ左欄「ソフトウェア&PC」の整理を行った。

#### (6) 情報セキュリティ関連の研修に参加（計3回）し、情報セキュリティ対策に関する規定についての理解を深めた。

### 3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる事案が発生している状況を鑑み、情報セキュリティ対策に関する規程等の内容を「政府機関統一基準の平成30年度版」が定める遵守事項に準じたものへの改訂に向けて、現規程の見直しをすることが引き続き大きな課題である。

さらに、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる状況であるため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が大きな課題である。

## 令和3年度 情報ネットワーク特別委員会 情報ネットワーク実行部会活動報告

### 1. 委員構成

委員：◎永吉雅人、柳澤義治(事務局次長)、佐藤利和(庶務係長)、森田裕美(教務係長)、山崎明彦(主事)、田村美和子(嘱託員)  
事務局：星野由衣(主事)、森さつき(任期付職員)

### 2. 活動概要

#### (1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りは新型コロナ感染症対策として見合わせた。

- (2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行った。
- (3) Wi-Fi ルータおよび盗難防止システム確認  
WIFI ルータおよび盗難防止装置としてネットワークカメラの稼働確認を行い、無線 LAN 環境と物品の保全につとめた。
- (4) アドレス帳の更新  
随時アドレス帳の更新を行い、学内ネットワークの保全につとめた。
- (5) セキュリティ情報の周知  
脆弱性を有するソフトウェアのアップデート依頼や不審メールなどの周知を行い、学内ネットワークの保全につとめた。
- (6) どこカレの管理・運用  
コース・カテゴリの管理者登録などの依頼に随時対応した。また、教務委員会の依頼に基づいて、コース・カテゴリの再構成（整理）を行った。



## 令和3年度 国際交流委員会活動報告

### 1. 委員会構成員

委員：◎樺澤三奈子、○Simon Elderton、渡辺 弘之、葛城 美徳、谷本 千恵  
事務局：梅山 香織、星野 史（～9月）、宮崎 達也（10月～）

### 2. 活動概要

#### (1) 法人計画 [54] 研究水準の向上や国際的な視野を養える国際交流事業に関する事項

国際的な視野を養える国際交流事業として、6月11日（金）16:30～18:00に、厚生労働省 新型コロナウイルス感染症クラスター対策班メンバーである、新潟大学の菖蒲川由郷特任教授を招き、国際交流セミナー「国内外における最新のCOVID-19対策の動向と見通し」を対面・オンライン併用形式にて開催した。教職員26名、学生（学部生5名・大学院生6名）、計37名が参加した。参加者から寄せられた感想から、COVID-19の特徴や国内外の対策についての知見の深まりが窺えた。セミナー後、eラーニングプラットフォーム及び学内掲示板を用いてセミナーの内容の周知を図った。

#### (2) 法人計画 [55] 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流促進に関する事項

##### ①ニュージーランド看護研修

###### <現地研修>

令和3年度の国際看護演習（1単位）の開講に向け、クライストチャーチ工科大学（以下、Araとする）との連携に基づくニュージーランド看護研修を企画する見通しであったが、ニュージーランドにおけるCOVID-19の遷延による海外渡航者の入国制限が続き渡航困難と考えられたことから、8月に現地海外研修の中止が決定された。

###### <代替企画>

昨年度、COVID-19の拡大に伴い中止されたクライストチャーチ工科大学（Ara）との連携に基づく現地海外研修プログラムの代替企画として、3週間（12日間）の同海外研修オンラインプログラムを企画した。3週間という研修期間は利益を担保するためにAra側から提示された最低日数であった。しかし参加希望者が最小催行人数である10名を満たさず中止となった。この背景には、現地に赴き直接交流することを望み、画面越しのオンライン研修ならばより短期間で参加したいという本学学生のニーズがあり、海外研修オンラインプログラムの企画において、Ara側の意向と学生のニーズが合致しない状況が浮き彫りとなった。

そこで今年度は、学生のニーズを満たすことをめざし、直接的な交流を期待できる地元上越での国際交流の促進と、単発的な海外交流の機会の確保に焦点を当て、以下の2つの内容を含む代替研修を企画した。

<地域における国際交流の促進を目的とする「外国籍模擬患者に対する臨床看護英会話をを用いた看護実技のシミュレーション演習」>

本演習は、問診、バイタルサイン測定、入院オリエンテーションロールプレイ、外国籍住民の出身国の保健医療に関する意見交換、振り返りから成り、併せて学びを補填するための事前・事後学習を備えた演習であった。12月18日（土）I・II限に開催された本演習では、（公社）上越国際交流協会（以下、JOINとする）の協力を得て、上越に在住するフィリピン国籍の協力者2名を模擬患者役として招き、2名の参加者がプログラムを完遂した。参加者は、外国籍住民が抱く病状に対する気配りや言葉が通じないことに伴う入院生活の心配事に心を寄せながらコミュニケーションを図るための工夫を学んだ。終了後、学内掲示板を用いて研修内容の周知を図った。

<「Ara看護学生と本学学生による国際交流オンライン交流会」>

本交流会は、本学およびAraの学生が約5名ずつオンラインで参加し、「コロナ禍における看護学生の学びの工夫」について、互いにプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行うものである。Araの看護学部長をはじめ看護学部教員の協力を得て、2022年2～3月に開催する予定であったが、先方の教員がCOVID-19市中感染に対する地域支援の最中であり本交流会での指導が困難であることから、本交流会を延期することとし、2022年5月の開催を見込み、日程の再調整を行った。

## ②地域の国際交流団体との協力体制の構築

### <JOIN との協力体制>

今年度以降においても、直接的な交流を期待できる地元上越での国際交流の促進をめざし、上述した(2)①の<代替企画>に先立ち、JOIN 事務局との交渉の結果、本学学生の国際交流促進という教育上の目的において相互的な協力体制を敷くことの合意が得られた。この体制の継続を図るため、本学は賛助会員として JOIN に入会した。

### <上越教育大学との協力体制>

上越教育大学国際交流推進センタとの交渉の結果、先方の留学生と本学学生との交流を促進することの意が得られた。感染の収束が見通せない現状では先方の留学生の日本への渡航が不確かであり、次年度以降の本学研修において留学生からの協力を得られるかどうかは不透明であるが、渡航が可能であれば協力を得られる見込みである。併せて先方の留学生による交流企画の一部に本学学生が参加することの了解が得られ、定期的に先方から企画の案内が届けられることになった。本学ではその案内を学生に周知し、参加を呼び掛けることになった。

### <新潟県国際交流連絡会議および理解教育推進協議会への参加>

新潟県国際交流連絡会議および新潟県国際理解教育推進協議会に会員校として参加し、地域機関・施設との情報交換を行った。

### <各種国際交流関連セミナーへの参加>

今後の国際交流活動への示唆を得るため、下記のセミナーに参加し、得られた知見について委員会で情報を共有した。

- ・ JOIN 主催講演会「やさしい日本語@医療の現場」(6月1日)
- ・ 上越教育大学留学生関係行行事「留学生が語る／留学生と語る会」(12月8日)
- ・ JANPU 国際交流推進委員会企画・主催セミナー(2月19日)  
「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」
- ・ 新潟県主催 海外留学オンラインセミナー(2月24日)

## (3) 次年度の課題(特に法人計画 [55] について)

令和4年度は、現地プログラムを優先して企画を進めるとともに、併せて渡航できない場合に備えて、今年度実施した代替企画を併行して企画する方針である。今年度は、JOIN のほか上越教育大学国際交流推進センターとの協力体制を構築しており、今後の地域における国際交流の定着への足掛かりを得た。また Ara の看護学部との繋がりを得てオンラインプログラム企画の拡充への可能性が得られた。次年度に向け、参加者の増加をめざし、代替研修プログラムの精錬に努める。

## 令和3年度 災害時看護支援特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎堀江正男、○河原畑尚美、川島良子、野口裕子、大口洋子  
事務局：佐藤庶務係長、岡田庶務主任

### 2. 活動概要

#### (1) 学生および教職員への訓練、研修および啓発活動

##### ①安否確認システムについて

新入生（学部、大学院）および新任教職員に対し、安否確認システム（以下、ANPIC）へのメールアドレス登録のサポートを行った。

ANPICの活用について、学生と教職員全員を対象とした安否報告訓練を3回（5月、10月、2月）実施した。

##### ②研修について

新任の教職員を対象に避難所開設初動対応シミュレーション研修会を実施した。実施後のアンケートから初動対応を理解できた旨の回答を得た。

コロナ禍における災害への危機意識啓発を目的として、新潟県防災局危機対策課の災害対策担当である大崎参事を講師に迎え、教職員向けの研修会を行った（11月）。

##### ③防災啓発活動について

学生に対する防災・減災教育として、AED設置場所、防災への日頃の備え、災害発生時の行動及び大学への安否報告方法等を周知した。また、学生自身で実際に備えている防災グッズ紹介のコンテストを実施し、災害に備えた防災グッズの紹介と防災意識の啓発を図った。また、教職員に対し、緊急連絡網の随時更新と周知、危機管理初動対応マニュアル・震災対応マニュアルの周知を図った。

#### (2) 他団体との連携事業

##### ①上越市との感染症対策に配慮した避難スペースについての拡大に関する、協定を締結した（10月）。

##### ②新潟県看護系大学等災害支援連携協議会定例会（8月、2月）に参加し、参加校、新潟県および新潟市における2020年度の活動および2021年度の活動案を共有した。

##### ③日本看護系大学協議会（JANPU）長野・新潟ブロック JANPU 担当者初会合にリモート参加し、長野県および新潟県の看護系大学における「災害時における教育支援」に関する意識共有を図った。

##### ④災害時支援の必要物品の管理

委員会管理の物品点検・確認を行い、支援用物品の充実及び必要物品の検討を行った。また、上越市の災害用備蓄品の管理も適正に行っている。予算50,400円は、物品収納棚や防災啓発物品を購入し、48,753円を執行した。啓発物品は効果的に使用する予定である。

### 3. 次年度に向けた課題

ANPIC 機能を活用するために、全学生と教職員のメールアドレスの登録サポートを継続するとともに、ANPIC 運用マニュアルの周知およびマニュアルの有効性を検証する。避難所開設支援を含めた実践的な研修や訓練を継続あるいは発展させ、有事に備える。

## 令和3年度 倫理委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎岡村 典子、○堀江 正男、樺澤 三奈子、葛城 美徳、徐 淑子  
学外委員：村中 智彦、小林 優子、橋本 明浩  
事務局：柳澤 義治、星野 史、宮崎 達也

### 2. 活動概要

#### (1) 倫理審査とその結果について

申請された倫理審査申請書（研究計画書）について、基本方針である「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年11月17日より）、「公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程」に則って審査を行った。

審査件数は総計34件（新規申請22件、変更申請12件）であり、3月末時点での承認件数は29件であった。なお、1件の審査は、申請者の大学院生が勤務先の新型コロナウイルス対策により来校困難となったため、オンラインにて審査を行った。

#### (2) 研究倫理研修会の開催について

令和3年3月23日に新たな指針「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が告示されたことを受け、この指針について学習する研究倫理研修会を令和3年8月31日（火）17時～18時30分にオンラインにて開催した。講師は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の際にも講師を務めていただいた国立研究開発法人国立国際医療研究センター上級研究員の高島響子先生にお願いした。対象は、本学の教員および大学院生とし、研修会当日の参加人数は、教員36名、大学院生24名（本学教員は除く）であった。研修会欠席者については、当日の研修会をZoom録画したものを、各自動画視聴することにより受講の代替とした。研修会出席およびZoomでの動画視聴が確認された教員・大学院生計89名に、受講証を発行した。

#### (3) その他

倫理指針の改正にあたり、令和3年11月17日に本学の研究倫理規程の一部改正を行った。これとともに、倫理審査申請書等の様式の変更、及び研究計画書のフォーマットの修正も行った。

また、今年度は、委員会の書記担当を決めるとともに、申請者ごとに記録担当を決め、審査内容の確認、及び共有を全委員にて行う方法とした。これにより、審査への共通見解が得られたとともに、条件付き承認の再審査にあたっては、審査がスムーズに行われていると評価している。

### 3. 次年度に向けた課題

次年度も引き続き、審査へのスムーズな対応に取り組むとともに、よりよい研究計画書の作成に貢献できるよう研究倫理研修会の開催を継続していく。

## 令和3年度 教務委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎大久保明子、○岡村典子、中村義実、高林知佳子、西田絵美、原等子、酒井禎子、  
谷本千恵  
事務局：山崎（潤）主任 → 星野（史）主任

### 2. 活動概要

#### (1) シラバスに関する事項（岡村委員、中村委員）

令和4年度の新カリキュラム導入に伴い、新カリキュラム用書式（1年生）と旧カリキュラム用書式（2～4年生）を区分けして作成した。新カリキュラムが定める「科目区分」「保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類」について、正確な確認を期した。新旧問わず、シラバス書式に「事前・事後学習」、および「DP」の記載欄を追加した。今後の課題：次年度は、シラバスのオンライン化に移行する予定である。円滑な移行に向けての準備が必要となる。オンライン化を活かし、シラバスをさらに有効活用し、学習効果を向上させるための方策を探る。

#### (2) 時間割に関する事項（西田委員、大久保）

時間割は、学外の非常勤講師の希望を優先すること、今年度と同様の時間割とすることを原則として作成した。令和4年度入学生から新カリキュラムの導入により、1年次生の授業単位数の変更があることや、新設科目や新規非常勤講師の時間割希望の調整があり、時間割作成に苦慮した。4年次時間割表の枠組みは、例年通り、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の課程別に表示できるよう作成した。時間割（案）を1～3月の教務委員会と教授会で示し、時間割を調整した。次年度は、1・2年生で新カリキュラムが適応になることを考慮した時間割作成が必要になる。

#### (3) 専門ゼミナールの実施に関する事項（原委員、谷本委員）

##### ①看護研究フィールド調整

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症蔓延予防に伴う対応のために4年次の看護研究については実習病院の職員や患者等への公的な依頼をせず、指導教員個々の対応の範疇で実施することとしてフィールド調整は行わなかった。結果、文献研究や実習事例の振り返り等の報告の他、インタビューやアンケート調査などが実施されていた。学生へのアンケート調査については委員会内で確認、調整をして学部長の調整により実施した。

課題：研究フィールドとしての実習4病院について以下の取り決めと調整を過去（コロナ禍前）に実施してきた。「看護研究のフィールドについての実習病院側の意向とフィールド依頼をする際の留意点」について全指導教員に周知を図る。実習4病院においては、看護管理者より希望する学生数が病院によって偏っていること、また部署の偏りによる対応困難を指摘されるなど調整に困難を要する。また、実習4病院以外の施設においても、倫理審査を受ける条件が付加される場合もあることそれに伴い、申請までの準備および承諾までの時間を要する可能性、研究開始の遅滞も考慮すること、さらに、研究フィールドとして病院を希望する場合は、早期にフィールド調整、研究計画書作成が必要となる事、調整担当教員および学生の負担増を検討する必要がある。

##### ②専門ゼミナール希望調査と振り分け

専門ゼミナール希望調査を第3希望までとして1月にオリエンテーションを行い、実施した。学生数が多い学年であり、共通基礎系教員の配置を多くなることなどを学生へのアナウンスに追加し、学生の希望の状況により振り分けを行った。

#### (4) 看護研究発表会に関する事項（高林委員、酒井委員）

前年度に引き続き2021年度も遠隔による発表形態とした。遠隔に対応できない学生は学内の情報科学教室からアクセスし発表を行った。また、今年度より、関係機関ならびに4年生の保護者も遠隔より参加できるよう案内を行った。当日参加できなかった下級生等は視聴できるように日時を決め配信できる体制を取

った。全体として大きなトラブルなく無事終了した。アンケートからはオンライン方式に対する肯定的な意見が多かったが、情報科学教室の利用方法や再視聴の公開日を増やすかなどについて検討が必要である。

(5) 教務ガイダンス・成績確認・実習先行要件の確認・各教育課程履修学生の確認（岡村委員、大久保）

教務ガイダンスは、学年別に半期ごとに実施し、各学年の履修科目の特徴や学習上の留意点など学年に応じた学習指導を行うとともに、ディプロマ・ポリシーの学年別到達目標の配布を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。成績確認は、前期および後期ごとに行い教授会に諮った。半期ごとの GPA が 2.0 未満の学生について、委員長が各クラス担任に学習支援を依頼し、指導状況の報告を受け、適切に支援がなされていたことを確認した。また、3 年次領域別実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。

看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。さらに、3 年次の 12 月を期限として教育課程変更の意思確認を行い、3 年次生からの変更希望はなかったが、4 年次生 2 名からの教育課程変更の希望があり、学長に報告し承諾を得て、教育課程変更を認めた。

(6) 学年暦作成（岡村委員）

事務局より、学生委員会、入試広報委員会、実習委員会等に各所掌事項の日程を確認してもらうとともに、前期・後期の授業コマ数を確保できるよう令和 4 年度学年暦を作成してもらい、教務委員会にて確認を行った。

(7) 非常勤講師の採用・ゲストスピーカー申請の確認（大久保）

令和 4 年度入学生から導入される新カリキュラムに伴う新規の非常勤講師の採用が多かった。新規の非常勤講師について審議を行い、その結果を教育研究審議会、教授会で報告した。非常勤講師には、初回講義開始前に辞令を交付し、学生の学習状況について情報交換を行った。また、非常勤講師が試験監督を行えない場合は、教務委員と事務局が担当した。教務委員が担当できない場合は、他の教員にも協力を要請することとなったが、今年度は教務委員と事務局で全て対応できた。ゲストスピーカーの申請では、授業時数の 1/3 以内という規程に見合っているか確認・検討しその結果を教育研究審議会と教授会で報告した。規定の時間数ではあるが、選択科目で履修する学生数が少ない科目に関しては、ゲストスピーカーの人数の調整を依頼した。

(8) 学習成果に関する自己評価の実態調査（原委員、中村委員、酒井委員、高林委員）

学生が看護専門職としての自己の成長と課題を明確化すること、および教育方法・内容の工夫と改善に資する基礎的資料を得ることを目的に、1~4 年次生を対象に「学年別到達目標到達度 自己評価に関する調査」を Moodle にて実施した。回収率は、1 年次生 94 名中 78 名 83.0%、2 年次生 94 名中 63 名 67.0%、3 年次生 98 名中 91 名 92.9%、4 年次生 84 名中 70 名 83.0%であった。

このうち 4 年次生の単純集計結果では、学年別到達目標の到達度が「十分できる」「まあまあできる」と回答した割合は、DP1 が 96.5%、DP2 が 93.1%、DP3 が 94.4%、DP4 が 93.1%、DP5 が 80.1%、DP6 が 89.6%と、いずれの DP の到達度も高く評価されていたが、DP5 は他の DP に比べてやや評価が低かった。カリキュラムに対する満足度では、83.3%が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しており、高く評価されている一方で、デジタル化が遅れている、教科による教員の質のバラつきがある等の意見が出されていた。

(9) 教育環境の整備についての検討

①GWやゼミを進める上での感染対策を踏まえた指針について（谷本委員、中村委員、酒井委員、高林委員）

文部科学省や他大学での感染対策に関するガイドライン・マニュアル等、ならびに、本学の演習等で実施されているグループワークにおける感染対策の状況を参考にしながら、「ゼミ・グループワーク 実施ガイドライン」（令和 3 年 9 月 15 日付）を作成し、全教員にメールで周知した。

②どこカレの運営・管理の進め方について（原委員、中村委員、酒井委員、高林委員）

どこでもカレッジ（どこカレ：Moodle システムを利用したオンライン学習支援ツール）を新型コロナウイ

ルス感染症流行に伴い2020年4月から授業および学生への周知連絡事項の伝達（掲示板機能）に実質的に活用することになった。しかし、このシステムはこれまで一部の授業で利用されてきてはいたが、この機会により全学生教員および大学事務が活用することに伴い、管理方法やルールが不文律の中で多少の混乱を生じつつ運用していた。そこで、教務委員会としてどこカレの利用者登録窓口となっていた情報ネットワーク特別委員会（情ネ委）に2020年度末から問い合わせを行い、2021年末にかけて運用指針、規定の整備を提案し調整した。どこカレが、大学として学生への連絡（掲示板機能）と在学生への学修支援（教育補助機能）の他に、永年活用されてきた実績のある看護研究交流センター事業における看護職への教育支援機能があることから、全体の管理機能を情ネ委に置くこと、教育補助機能に関しては、各科目の教員登録等に関しては情ネ委が行うが、内容においては担当教員が行うことを確認した。また、掲示板機能の管理については情ネ委、教務委員会等と次年度以降も協議が必要である。

なお、学生にとって視認性の良いトップページ、コンテンツツリーの調整などの提案を教務委員会から情ネ委に行い、2021年末に作業を情ネ委にさせていただき、関連のコンテンツへのアクセスがしやすくなった。

### 3. 次年度に向けた課題

#### (1) 学務システムの導入

学務システムの導入による成績管理等について、具体的な運用についての検討が必要になると思われる。学生が経年的な自己評価に基づき成長と課題を明確化できるようなシステムの整備が課題である。

#### (2) 遠隔授業と対面授業の対応

今年度は、看護交流センターの協力を得て非常勤の対応はできており、次年度も同様に協力を依頼する必要がある。また、濃厚接触等で登校ができなくても学習の機会を可能な限り提供していくためにハイブリッド（対面+遠隔）授業への対応をより簡便にできるシステムの導入が必要である。

#### (3) 演習物品等の適正な管理・運用のためのルールの作成

演習物品等の適正な管理・運用のためのルールの作成について、今年度検討できなかったため、次年度に繰り越しとする。

## 令和3年度 実習委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎酒井 禎子、○河原畑 尚美、西田 絵美、川島 良子、関 睦美、安達 寛人、野澤 祥子、相澤 達也  
事務局：星野 史

### 2. 活動概要

#### (1) 実習懇談会ならびに実習指導者研修会の開催

令和3年5月26日（水）に実習施設19施設19名、教職員37名の計56名が出席し実習懇談会を開催した。実習指導者研修会は、令和3年9月16日（木）に開催した。「看護学実習指導における臨床指導者と教員の連携」をテーマに舟島なをみ教授よりご講演いただいた。対面参加とオンライン（Zoom）参加を併用し、111名の参加があった。

#### (2) 領域別実習の実習配置表作成とオリエンテーションの企画・運営

令和3年度3年次領域別実習配置表の作成を行い、令和3年6月18日（金）に領域別実習の全体オリエンテーションを実施した。

#### (3) 総合実習希望調査と各コースの学生配置表作成

令和4年度総合実習に向けて、令和4年1月6日（木）に対面および遠隔の併用でオリエンテーションを実施した。学生の希望調査をふまえて各コースへの学生配置を行った。

#### (4) 看護技術到達度リストの配布・集計ならびに見直し

看護技術到達度リストの1年生への配布を行うとともに、総合実習終了後に回収・集計をし学生の技術習得状況を把握した。また、新カリキュラムにあわせて一部改訂を行った。

#### (5) 「臨地実習の概要」の改訂と実習要項の印刷

各実習要項を300部ずつ印刷した。また、2022年度入学生配布用の「臨地実習の概要」を新カリキュラムの内容に沿って修正した。

#### (6) 継燈式開催における支援

7月19日（月）に第2ホールにて2021年度継燈式を開催した。学生実行委員とCOVID-19感染症対策を講じた方法を検討・工夫して実施した。

#### (7) 実習における新型コロナウイルス感染防止対策

10月1日付で「実習に伴う新型コロナウイルス感染防止対策について」「実習前の行動に伴う臨地実習停止に関する申し合わせ（教員用）」の改定を行った。

#### (8) その他

1年生のユニフォーム購入への支援、実習物品の購入、実習で使用する講義室・演習室の調整を行った。また、本学が当番校となり、「上越地域看護学実習連絡調整協議会」を9月21日（火）に新潟県立看護大学にて開催した。

### 4. 次年度に向けた課題

実習におけるCOVID-19感染予防に関連した学生への指導や、新カリキュラムに合わせた看護技術到達度チェックリストの見直しを行うとともに、引き続き現行カリキュラムおよび新カリキュラムにおける実習配置の調整を行っていくことが課題である。



## 令和3年度 学生委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○エルダトン サイモン、渡辺弘之、山田恵子、船山健二、  
関睦美、東條紀子、谷内田潤子  
事務局：亀井宣幸、岡田優佳(9月まで)、新井里季(10月～)

### 2. 活動概要

#### (1) 学生自治会活動支援

- ・新入生歓迎レセプションを4月7日(水)に対面実施。
- ・球技大会を4月24日(土)に実施(右大腿部負傷学生1名)。
- ・自治総会を6月8日(水)に対面実施。
- ・桜蓮祭を11月7日(日)に、「ON:E~いつでも、どこでも~」をテーマとし、学内者のみを対象としてオンライン開催した。内容：実行委員会主催企画2、サークル企画4、教職員企画1の計7企画から構成され、約60名の参加があった。実行委員会の編成から、予算執行、反省会の一連の過程においても、トラブルなく実施できた。
- ・高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの活動では、1月に発刊されたニュースレター(NSN通信第3号)に本学の学生も寄稿した。

#### (2) 学生との意見交換会

- ・実施日時：令和3年12月17日(金)17:10~18:10
- ・出席者：学生20名、教職員：26名
- ・内容：学年別の課題や、授業、大学生活への要望、さらにオフィスアワーの活用について、話し合いが行われた。
- ・結果の活用：意見交換会で話し合われた内容の要約を参加した教職員に配布し、学生にはどこカレ掲示板に掲示した(3月)。

#### (3) 学生生活実態調査

- ・実施期間：令和2年9月27日(火)~10月8日(金)
- ・対象者(回収率)：1年生94名(100%)、2年生93名(65%)、3年生97名(65%)、4年生86名(86%)。
- ・調査内容・方法：前年度と同様の内容について、どこカレ上に調査用紙を設置し入力する方法とした。
- ・結果の活用及び周知：集計結果は、ポスターを学生食堂前に掲示するとともに、どこカレ学年掲示板(11月)及び学内HPに掲載した(11月)。教授会にて集計結果の印刷資料を配布した(11月)。学生との意見交換会の資料とした。
- ・経費：32,472円(集計作業・資料作成をテンプスタッフに依頼：計15時間)
- ・調査に対する委員の意見として、項目数の多さが学生の負担になっていると思われる。学生への協力依頼方法について強制にならないよう配慮が必要であるという意見があり、次年度の検討事項となった。

#### (4) 学生の地域交流支援・学生のボランティア活動支援

- ・学生の地域交流支援：今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点で例年の高田祇園まつりの民謡流し、その他の地域の行事は中止となり、学生の地域交流の機会はなかった。
- ・学生のボランティア活動支援：今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点で行事等が制限されたため、上越市からのボランティア協力要請もなかった。

#### (5) 新入生オリエンテーション

- ・新入生オリエンテーションは、対面で4月9日(金)学内での自己・他己紹介/アイスブレイキング、4月10日(土)大学周辺のウォークラリーを企画・実施した。

- ・ウォークラリーは3コースに分散し、上級生21名の協力を得て行った。
- ・1年生同士の交流とともに、上級生と交流し、大学生活をイメージする機会となった。
- ・令和4年度の新入生オリエンテーションについても、コロナ禍の状況を考慮して企画を検討した。

#### (6) 学修支援・学生相談・教育環境の向上他

- ・2021年度年度計画26-2の「学生へのオフィスアワーの活用に関するガイダンスを 継続するとともに、低学年のオフィスアワー活用促進に向けて「研究室訪問企画」を 年2回実施する」に基づき、低学年を対象にオフィスアワーの周知徹底を行った。また今年度は初めての試みとして昼休み時に大学内の放送を利用してオフィスアワー実施の周知を行った。オフィスアワーの1回目は5月24日(月)-5月28日(金)、2回目は7月5日(月)-7月9日(金)に実施した。当企画実施にあたり低学年からの研究室訪問を想定していたが、実際には3、4年生からの研究室訪問も多くみられた。同年に行われた学生生活実態調査の結果では、オフィスアワー制度の認知は高いが学生の活用が2割以下であることが明らかとなっており、今後学生に対してオフィスアワー制度の利用促進に向けた働きかけが必要となっている。
- ・学生相談者関係会議を8月と2月に2回開催し、学生相談を担当する学年担任や学内カウンセラー、学内保健師などとともに学生の抱える問題を共有する機会を設けた他、 具体的な支援のあり方などについて意見交換を行った。

#### (7) 各種奨学金等

- ・日本学生支援機構：1年；48名、2年；32名、3年；49名、4年；42名  
前年度の成績（GPA）を基準に対象者を選別し、「警告」の対象となった奨学生に対し、担任による個別指導を行った。
- ・その他の奨学金：1年；6名、2年；10名、3年；4名、4年；4名

合計 195名

#### 3. 次年度に向けた課題

- ・コロナ禍での学生支援活動：現在もCOVID-19の収束の見通しが見えない状況下で、新入生オリエンテーションや学生自治会活動をはじめとした様々な委員会活動について、引き続き感染状況を考慮した運営方法の検討が必要される。また、コロナ禍による学生生活への影響をふまえ、学生支援をより細やかに行っていくことが求められる。
- ・学生生活実態調査：昨年度より従来の質問紙からどこカレ上の入力に調査方法を変更してから回収率が低下傾向にある。法人中期計画に述べられている、「学生が抱えている問題点や悩みを明らかにし、改善の資料」となるよう、関係部署と相談しながら調査内容や調査方法について引き続き検討していく。

## 令和3年度 研究推進委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎葛城美德，○永吉雅人，樺澤三奈子，徐淑子，事務局：岡田優佳、宮崎達也

### 2. 活動概要

#### (1) 教員の研究計画立案能力向上に向けた支援（Research Proposal Consultation 以下 R.P.C.）について

R.P.C. (Research Proposal Consultation) を通して教員が研究計画立案と洗練に向け個別指導を受ける機会を提供し、教員1名が指導を受けた。また、助教・助手を対象とした研究計画立案に関わる学習機会として R.P.C. (Research Proposal Consultation) CAFÉ を開催し、3名の助教が参加し、計画立案に関わる問題とその克服に関しコンサルテーターも交えたグループディスカッションを行い、参加者からは高い満足度を得られた。

#### (2) 科研費申請に関する説明会の開催について

新型コロナウイルス感染防止のため、学内サーバ上に令和3年度科研費申請学内説明会用コンテンツをアップし、科学研究費の制度や制度の変更点に関する情報提供や科研費電子申請システムによる令和4年度応募書類の学内送信スケジュールについて公開した。

#### (3) 研修会の開催について

ア 令和3年8月4日(水)に助教・助手を対象とした研修会「R.P.C. (Research Proposal Consultation) CAFÉ」を開催し、3名の助教・助手の参加があった。樺澤委員がファシリテーターを、その他の委員がアドバイザーを務め、研修会参加者からの質問に対し、自身の経験を交えながら質問に回答や助言を行った。参加者からは高い満足度を得られた。

イ 令和4年3月10日(水)に科研費を獲得している学内の教員3名を講師とした研修会「優れた研究計画書の作成」を開催し、24名が参加した。参加者からは様々な質問があり、活発な意見交換がなされた。

#### (4) 学内共同研究助成について

ア 令和3年度学内共同研究助成に関する募集を行い、4件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、応募のあった4件のうち、3件について研究助成を行うことを決定した。

##### 【昨年度からの変更点】

- ・ 科研関連のスケジュール変更に伴い、本助成関連のスケジュールを変更した。
- ・ 科研等他の競争的研究資金に応募中の課題に関連する研究は、単年度研究に再構成したうえで本助成に応募可能とした。（これに伴い、要項を一部変更した）。
- ・ 昨年度実施された COVID-19 流行の影響による研究期間の延長措置については、本年度は実施しなかった。

#### イ 令和2年度採択 学内共同研究助成成果報告について

(7) 令和3年11月24日(水)に令和2年度に採択された2件の学内共同研究に係る研究成果報告会を開催した。

(i) 報告形式については、口頭発表による報告会とし25名の教職員及び大学院生の参加があり、活発なディスカッションが展開された。

(ii) 研究成果報告書については、別に様式を定め、令和4年2月28日(月)までに全ての研究代表者からの提出が確認された。

(5) 研究活動の活性化に資する本学図書館蔵書の展示について

- ア 図書委員会との合同企画「研究活動のためのおすすめ資料展示」を令和3年7月19日(月)から令和3年9月30日(木)までの期間、実施した。
- イ 研究能力向上や研究助成金獲得に資する図書を新規に4冊購入し、既存の図書と合わせ75点を特別展示し、期間中に15件の貸し出しがあり、また利用者からは好評だったため、次年度以降も定例開催することを確認・決定した。

(6) 前年度までに実施された研究活動活性化に向けたニード調査によって明らかとなった研究活動を推進するための具体的な支援について

本学における研究環境の把握及び研究を阻害する要因と支援ニーズを明らかにすることを目的として本学の教員を対象にアンケート調査を実施・分析した結果、データ分析や英語論文執筆のサポート体制の構築を目指すこととした。まず、情報処理や英語を専門とする本学教員に対して、どのような形での協力が可能か、協議を開始した。引き続き、適切な形でのサポート体制の構築に向けて、協議を継続する。

(7) 本学教員の研究者情報の公開：Researchmapへの登録促進について

本学の従来のHPでは、教員各個人の業績については5報を上限とした公開となっており、十分な情報発信がなされていなかったため、全教職員を対象にResearchmap(科学技術振興機構による研究者データベース)への登録促進を行った。3月末の時点で9割近い教員が登録を完了しており、4月には本学HP上の個人のページからResearchmap上の個人ページへのリンクを作成する予定である。各教員のResearchmap上のページには、すべての業績を公開することができ、国内外の様々な分野の研究者から一般の方まで幅広い情報公開が可能となる。

(8) R3年度およびR4年度科学研究費の新規申請件数及び採択件数について

(2022年3月25日現在)

区分	R3 申請件数	R3 採択件数	R4 申請件数	R4 採択件数
基盤研究 (S)	0	0	0	- (審査中)
基盤研究 (A)	0	0	0	0
基盤研究 (B)	1	0	1	1
基盤研究 (C)	13	3	14	2
挑戦的研究 (開拓)	0	0	0	- (審査中)
挑戦的研究 (萌芽)	3	1	0	- (審査中)
若手研究	2	0	0	0
合計	19	4	15	3

## 1. 委員会構成

委員：◎谷本千恵、○石原千晶、西田絵美、徐淑子

事務局：山崎明彦

## 2. 活動概要

### (1) 教員の教育評価および教育能力の開発に関する事項

#### ①学生による授業評価アンケート調査

昨年後期と同様にオンライン入力により従来どおり科目ごとの授業評価アンケートを実施した。

「全体集計結果」

講義・演習科目の授業満足度の大学全体の平均は、前期及び後期、通年ともに  $4.5 \pm 0.8$  で、昨年度後期 ( $4.3 \pm 0.8$ ) 及び法人計画評価指標目標値 (4.2) を上回った。

実習科目の授業満足度の大学全体の平均は、前期  $4.2 \pm 1.0$ 、後期  $4.5 \pm 0.6$  で、後期については昨年度後期 ( $4.3 \pm 0.6$ ) と法人計画評価目標値 (4.2) を上回った。本学では、コロナ流行の影響で、急速、令和2年度後期からどこカレを使用したオンラインアンケートに変更したため、令和3年度の結果は、紙面調査からオンライン調査への経過期間の数値として見る必要がある。

また、昨年度の課題である回収率向上のための取り組みを行った。具体的には前期の早い時期から、アンケートへの協力依頼を学生と教員に対して複数回行い、依頼方法については口頭のみならずQRコードの入ったポスター・チラシ・名刺カード等を作成し、スムーズにオンライン入力ができるように工夫した。その結果、前期の講義・演習科目の回収率は44.8%で、昨年度後期の36.4%及び他学で報告されるオンラインFDアンケートの平均的な回収率と思われる30%の水準を上回った。一方、後期の講義・演習科目の回収率は24.1%に低下した。集計結果は教授会での口頭報告及び担当教員に提示し、フィードバックした。回収率低下の主要因として紙媒体からオンライン入力への変更が考えられるため、アンケートの設置場所をどこカレ内のFD委員会のコースから各科目のコースに変更することを検討中であったが、次年度から新学務システムが導入されることとなったため、当該システムに移行する予定である。

#### ②授業検討会の開催

前年度は前期・後期の2回実施した検討会を、前期のみ1回実施とした(7月8(木)5限、科目：形態機能学、担当：堀江正男教授)。参加者7名、委員会メンバー4名の計11名で、企画は好評であった。本学の実習スケジュール等から、後期に集会を実施しても参加者が集まらないことが多いため来年度も前期のみの実施とする。授業を公開してくれる教員をどのように探すかが課題であり、次年度も引き続き検討していく。

#### ③広報誌 FD 通信第5号の発行

前年度までA4見開き4ページであった紙面を、今年度は情報を厳選しページ数を減らしてA4表裏2ページとし、コンパクトな紙面とした。掲載内容は、授業検討会の開催報告やFD研修会の予告等であり、後援会での配布やリポジトリ登録を行い、学外への説明・情報提供資料として、発行の意義はあると考えられた。

#### ④FD研修会

2月8日(火)に上越教育大学の阿部隆幸教授による「グループ学習を効果的にすすめる教育方法論」を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により次年度に延期となった。

## 3. 次年度に向けた課題

### (1) 授業評価アンケート

回収率の向上に向けて引き続き取り組む必要がある。次年度後期から授業評価アンケートが新学務システムへの移行が予定されており、学生・教員双方がスムーズに新システムに適應できるような働きかけが

必要と思われる。また次年度から新カリキュラムが開始されるため、新カリキュラムに対応した授業評価アンケートを検討する必要がある。

(2) 授業検討会

より積極的な教員の公開授業への協力が得られる方法について引き続き検討が必要である。

(3) FD 通信

学生によりいっそう興味を持って読んでもらうための紙面作りについて検討する。

(4) FD 研修会

新型コロナウイルスの状況を鑑みながら安全に実施できるような方法を検討する。

## 令和3年度 国家試験対策就職委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高林知佳子（委員長），○原等子（副委員長），酒井禎子，山田恵子，佐々木三和，川島良子，谷内田潤子，前川絵里子，八巻ちひろ  
事務局：岡田優佳（～9月），新井里季・亀井係長（10月～）

### 2. 活動概要

#### (1) 国家試験対策の企画および実施について

##### ①国家試験対策講義

看護師・保健師国家試験の受験対応として、7月～12月にかけ4年生対象の国家試験対策講義およびガイダンスを25回、7月と2月に3年生対象のガイダンスを実施した。今年度は、看護師国家試験対策を強化するために、必修問題及び薬理学・生化学に関する講義を追加した。例年に比べて出席率が低かったことから、次年度は学生の出席状況やアンケート調査の結果をふまえ、より学生が参加しやすくニーズに沿った国家試験対策講義になるよう、検討が必要である。

さらに学生への国試対策指導を充実させるため、本学教員を対象としたセミナーを実施し、国試結果の分析、最近の国家試験の動向や出題傾向などに関して共通理解を深めた。

##### ②国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成の模試を、看護師は計8回、保健師は計4回、助産師は計3回実施した。模試の結果は、ゼミ担当教員および国家試験対策委員会で継続的にフォローし、必要に応じて学習指導を行った。

##### ③国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

今年度卒業生全員（96名）が看護師国家試験を受験した。保健師国家試験は90名が受験、助産師国家試験は4名が受験した。

国試受験者が受験票を受け取りに来る機会を使い、受験生を激励する会を開催した。

今年度の国試結果は以下のとおりである。

	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看 新卒	84名	84名	100%	96.5%	91.3%
保 新卒	80名	78名	97.5%	93.0%	89.3%
助 新卒	3名	3名	100%	99.7%	99.4%

#### (2) 進路指導について

学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるように、進路ガイダンスを4回実施した。1回目は、主に1年生を対象とし、事前アンケートにて就職・キャリアについて知りたい内容を把握した上で、助産師、保健師、看護師の就職内定者4名によるシンポジウム等を通し、自分のキャリアを具体的にイメージし、将来ビジョンを検討した。2回目は、2年生を対象に「適切な職場探しのコツ」の説明と「私の看護職としてのキャリア選択」と題し本学の卒業生のスピーチを聴き、活発な質疑応答を行った。3回目は、3年生を対象に就職活動の具体的な指導を行い、4年生によるピア活動（就職相談）を行った。4回目は、看護師・助産師・保健師として働く卒業生1年目の卒業生からの助言と看護協会看護師による卒業研修などの講話を行った。

また、月1回の委員会では、進路（就職・進学）届の確認や委員同士の情報交換を行い、進路状況に課題がある場合はゼミに持ち帰り、学生対応を行った。また、年度初めの教学オリエンテーションにおいては2～4年生まで各学年に対し、それぞれの学年のニーズに応じた説明を行い、国家試験対策・就職委員会メンバーを紹介するとともに、各学年掲示板（Moodle）において掲示し、学生が相談しやすい体制を周知した。

今年度の進路状況は、就職81名（県内59.0%、県外41.0%）、進学3名（県内33.3%、県外66.6%）であった。

(3) 求人訪問対応と進路情報の提供

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、直接来学しての求人訪問が3件と少なく、今年度も4件の求人訪問と少ない件数ではあったが、来学した施設の責任者、就職担当者と情報交換を行い、特にコロナ禍での看護教育についてのニーズを把握した。1機関はZoomでの訪問であった。いずれも訪問時に学生へのメッセージ動画の許可を得て撮影し、Moodle上で学生が情報の一つとして活用できるようにした。また、実習受入れ等の他の機会に、本学からの卒業生を実際に受け入れている就職先との、本学の教育についてのニーズを把握に努めた。

(4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

(5) 就職活動実態調査

4年生を対象として就職活動に関する調査を実施した（回収率89.4%）。昨年度同様、コロナ禍により説明会やインターンシップに参加できない状況で就職先を決めねばならず、困惑していた学生がいた。しかし、昨年は就職希望地をコロナ禍で変更余儀なくされた学生が一定数いたが、今年は希望地を変えた人は少なかったようである。コロナ禍が続き地元志向が強くなってきていることもあり、今年度も年内就職率は過去の水準よりも高めを維持しているが、冒険心のある学生のモチベーションは、コロナ禍の慣れもあり維持されたようである。

3. 次年度に向けた課題

- ・4年生への国家試験対策講義の理解・開催時期・内容について検討する。
- ・1・4年生へのキャリアガイダンスの周知と参加の促しについて工夫する。
- ・コロナウイルス影響下にあって、学生が個々のニーズに応じた探索行動を適切な時期に余裕をもってできるための声かけや注意喚起を適宜していく。
- ・就職求人施設訪問が減り、事業所等との情報交換がしにくくなっているが、訪問される事業所には丁寧に対応し、相互に情報発信できるようにするとともに、学生への情報提供をしていく。
- ・学生個々の就職活動を支援する教員及び事務職員の体制を整備する。



令和3年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中村 義実、○堀江 正男、○伊豆上 智子、永吉 雅人、佐々木 三和、野口 裕子、石岡 幸恵、  
山岸 美奈子、大倉 由貴、東條 紀子、相澤 達也、高橋 絹代  
事務局：森田 裕美、関口詩織、星野由衣、山崎 明彦（敬称略）

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

①令和4年度入学試験の実施

学校推薦型選抜・社会人選抜（11/20）、一般選抜〔前期日程（2/25）、後期日程（3/12）〕を実施した。追加合格者1名を含め、総計104名が選抜され、95名（辞退者9名）が入学手続きを行った。推薦の志願倍率は2.29倍（実質倍率2.22倍）、一般の志願倍率は8.27倍（実質倍率4.45倍）だった。前年度、前々年度を含めた詳細は下表参照。

推薦及び一般選抜従事者のための学内説明会（推薦11/10、一般前期2/9、一般後期3/2）、入試実施本部会議における合否判定（推薦12/1、前期3/2、後期3/18）、合格発表（推薦12/3、前期3/5、後期3/22）を実施した。その他、科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

令和4年度入学者選抜実績（令和4年3月31日現在） R4(上段)/R3(中段)/R2(下段)

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)	入学者数 (人)
							括弧内は 辞退者数		括弧内追加 合格者数
学校推薦型選抜	35	80	2.29	80	100	2.29	36	2.22	36
	35	67	1.91	67	100	1.91	35	1.91	35
	35	54	1.54	54	100	1.54	35	1.54	35
社会人選抜	若干名	0							0
	若干名	0							0
	若干名	1		1	100		0		0
一般選抜(前)	50	233	4.66	212	91.0	4.24	52(7)	4.48	45
	50	66	1.32	63	95.4	1.26	51(4)	1.24	47
	50	133	2.66	128	96.2	2.56	51(6)	2.51	45
一般選抜(後)	10	263	26.3	86	32.7	8.60	15(2)	5.73	13
	10	117	11.7	27	23.1	2.70	13(5)	2.08	8
	10	110	11.0	28	25.5	2.80	14(1)	2.00	13
一般選抜(計)	60	496	8.27	298	60.1	4.97	67(9)	4.45	58(1)
	60	183	3.05	90	49.2	1.50	64(9)	1.41	55(5)
	60	243	4.05	156	64.2	2.60	65(7)	2.40	58
総計	95	576	6.06	378	65.6	3.97	103+1(9)	3.66	95(1)
	95	250	2.63	157	62.8	1.65	99+5(10)	1.59	94
	95	298	3.14	211	70.8	2.22	100(7)	2.11	94(1)

(2) 大学入学共通テストの実施に関する事項

大学入学共通テスト（1/15、1/16）を実施した。試験従事者説明会およびリスニング説明会（12/22）を实

施した。

### (3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」に基づいて各入学者選抜を実施した。学校推薦型選抜において、受験生の解答に影響は及ぼさなかったものの、問題印刷時に起因するミスが発生した。県庁及び文部科学省に報告を行うとともに本学ホームページ上に公表した。再発防止のため、上記マニュアルの印刷手順の部分に変更を加え、ミス防止を強化する措置を講じた。一般選抜、大学入学共通テストに関しては、全ての業務に関して厳正かつ適正に行い、トラブルが発生することなく終了した。

### (4) 学生募集に関する事項

#### ①オープンキャンパス、出前講義、大学説明会、学内見学について

オープンキャンパスは、コロナウィルス感染症の流行により対面方式をやむなく中止としたが、Web オープンキャンパスを8月から本学ホームページ上で常時開設し、視聴者数は1800名（推定）に達した。模擬講義や看護体験演習の動画コンテンツを拡充した。さらに本学学生と受験生のオンライン交流プログラム（トークライブ）を実施し、35名が参加した。出前講義は、17教員による25講義の登録があり、年度を通して延べ6回の講義が実施された。進学説明会には21回の参加（うちオンライン参加4回）、学内見学の受入れは4回行った。

#### ②高校訪問について

高校訪問を実施した。年度を通して、22校を訪問し、本学PR、ならびに高大連携の強化を図った。

#### ③広報誌の作成

大学案内（キャンパスガイド）を作成し6月に発行した。広報誌（ポルティコの広場）は今年度より年間2号から1号の発刊とし、内容の充実を図った。第39号を12月に発行した。

#### ④大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。また、SNSの大学アカウントを12月に開設し、コミュニティーとのつながりの中で、大学情報の発信を行う体制を整えた。

## 3. 次年度に向けた課題

2022年度入学者選抜は、学校推薦型選抜、一般選抜前期、一般選抜後期のいずれにおいても、過去の最高値を上回る志願者数を記録した。前年度の不振を挽回し、これまでにない大幅な志願者増を達成した。

前年度の倍率の低さが今年度の志願者増に影響を与えたことは否定できないが、公立大学としてのステータス、学費の優位性、単科大学としての魅力、地域貢献に直結した教育など本学の強みが活かされたことが要因と考えられる。加えて、コロナ禍において、年度を通して対面授業、現地実習を行ったこと、入試広報活動において、オンライン化、デジタル化の導入を加速させたこともプラスに作用したと考えられる。

学校推薦型の志願者数は2年連続の増（54→67→80）となり、定員5名増となる次年度に向けて、さらに勢いをつけたい。県内高校における出前講義、高校訪問を地道に継続し、高校の探究学習への支援等、高大接続の質を深める機会を窺いたい。

一般選抜の志願者数は、前期が前年度の約3.5倍（66→233）、後期が約2.2倍（117→263）に伸びた。とりわけ県外からの志願者が増加し、前期は約9.4倍（12→113）、後期は約3.5倍（44→152）に跳ね上がった。一方県内は、前期が約2倍（54→113）、後期が約1.5倍（73→111）で県外の勢いには及んでいない。

いわゆる隔年現象の波は、次年度入学者選抜に確実に影響を及ぼすことが考えられる。今後、18歳人口の減少はさらに進む。オンラインを活用した入試・広報活動のさらなる工夫、また、全学をあげての本学の魅力づくりへの取り組みが、引き続き求められる。

## 4. その他

特になし

## 令和3年度 図書委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○石田和子、石原千晶、大口洋子

事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

### 2. 活動概要

#### (1) 管理運営

①図書館費 12,699 千円

②入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。

③各種協議会・研修会等への参加

- ・新潟県大学図書館協議会総会（ZOOM）（飯田職員）
- ・新潟県大学図書館協議会研修会（飯田職員）
- ・公立大学協会図書館協議会 総会（ZOOM）（飯田職員）
- ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（書面審議）
- ・著作権セミナー（石野司書）
- ・図書館総合展 図書館資料保存アカデミー（飯田職員）
- ・日本医学図書館協会関東地区会 2021 年度研修会（飯田職員）
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会 総会（飯田職員）

④上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。

期間：10月4日～11月30日

交換展示図書は100冊。

⑤蔵書点検

図書館2月16日～2月22日、研究室1月5日～28日に実施した。

⑥上越教育大学附属図書館、上越市立図書館と三者連携協力に関する協定を締結した（3月15日）

#### (2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

・ブックハンティング（10月27日）

学部生3名が自ら書店で選書を行った。16冊全てを購入し、学生作成のPOPを付けて館内展示した。

#### (3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」No45を11月に発行した。大学配布先は、大学役員・県内大学図書館・病院を中心に、72箇所であった。

#### (4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」について、学内教員に依頼して実施した。

#### (5) 図書購入

①教員選書図書及び推薦図書

予算630,000円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書139冊の推薦があり、全てを購入した。

②学生リクエスト図書

学生より5冊のリクエストがあり、5冊を購入した。

#### (6) 雑誌購入

購読雑誌の継続購入について審議し、継続を決定した。購読雑誌の利用状況については、通年にて調査を実施した。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること

- ①寄贈図書：図書 401 冊，視聴覚 4 巻
- ②除籍：図書 857 冊

(8) リポジトリ

リポジトリへの登録を全教員に呼びかけ、さらに学会誌に論文を発表した教員に対して個別に登録を依頼した。その結果、学術論文を 9 件登録し、累計 59 件となった。他にも学内発行物を 13 件登録した。

(9) その他

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・図書と文献の郵送サービスを実施し、文献 15 件の利用があった。
- ・学外者の事前予約サービスを行い、来館者数を制限した。

②企画展示

- ・新入生に向けた「看護大生のためのスタートブック」の展示  
新入生向けのブックリストを作成し、新入生ガイダンスで配布した。3 月 16 日～5 月 31 日まで展示を行った。
- ・研究推進委員会との合同企画展示  
図書の展示あるいは蔵書紹介をとおして、研究計画策定、ことに科研費調書作成に 資する情報の共有や、意欲の喚起を図るため、7 月 19 日～9 月 30 日まで研究推進委員会との合同企画展示を行った。
- ・認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー  
「認知症の人と家族の会」との共催で「認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー」の展示を 9 月 1 日～30 日に実施した。

3. 次年度に向けた課題

- ・新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。
- ・図書館のちからプロジェクトは今後も継続する。

## 令和3年度 紀要委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員: ◎伊豆上 智子, Elderton Simon, ○小林 綾子, 関 睦美

事務局: 亀井 宣幸, 飯田 孝枝

### 2. 活動概要

#### (1) 新潟県立看護大学紀要第11巻発行

3月初旬の発行に向けて年間計画を立案し、本学大学院ガイダンス、教授会、本学ホームページで原稿の投稿を呼びかけた。昨年度に引き続き、投稿予定者には投稿事前届出書の提出を求めた。7編の原稿の投稿(うち1編は投稿取り下げ)があり、本学紀要査読要項に従って査読者を選出して採否を検討し、2編の論文(原著1編、報告1編)の掲載を決定した。紀要第11巻は、電子ジャーナルとして発行するため、本学リポジトリ(にこナース)に登録して令和4年3月3日に公開した。

#### (2) 新潟県立看護大学紀要投稿要項等の改定

今年度投稿された原稿を本学紀要投稿要項に基づいて点検し、図表を含む投稿原稿の本文枚数や文献記載方法を中心に説明を加え、英文Abstractを付す原稿は投稿時にnative check証明書の提出を求めることとした。併せて、投稿原稿に添付する「投稿チェックリスト」の該当項目を改定内容に整えた。本学紀要査読要項改定による紀要発行時期への影響を考慮して、投稿事前届出書の提出は令和3年度で終了する。

#### (3) 新潟県立看護大学紀要査読要項等の改定

昨年度改定した本学紀要査読要項に従って査読をすすめる過程で、投稿者、査読者、紀要委員会の認識をさらに共有する必要性を確認したため、投稿者が希望する論文種類での掲載可否を判断する査読方針を明記し、査読意見を受けた投稿原稿の著者が投稿原稿を見直し再提出する期間を3週間とすることとして紀要第12巻から適用する。

#### (4) 予算の執行状況について

令和3年度の予算額150,400円の執行額は104,198円であった。

#### (5) その他

令和3年1月から12月の本学紀要(第1～10巻)の閲覧・ダウンロード数は16,431件だった。

### 3. 次年度に向けた課題

新潟県立看護大学紀要第12巻を発行する予定である。課題は、投稿原稿数の増加と投稿原稿の掲載率向上を実現することである。改定した本学紀要投稿要項と本学紀要査読要項に沿って投稿原稿の査読をすすめる、投稿原稿の著者と査読者が共通認識できるように適宜働きかけながら取り組む。

## 令和3年度 教学委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎石田和子 ○高柳智子 平澤典子 舟島なをみ 長谷川雅美 小野幸子 岡村典子 大久保明子 伊豆上智子  
事務局：森田教務係長、亀井図書学生係長

### 2. 活動概要

#### (1) 年間活動計画

令和3年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。また、本委員会の記録については、森田教務係長と亀井図書学生係長が交互に担当することとされた。

令和3年度の教学委員会内の役割分担を検討した。以下のとおり決定した。

役割	担当
教育環境整備	石田教授 舟島教授
論文発表会	岡村教授 長谷川教授
学生便覧	岡村教授 平澤教授
シラバス	高柳教授 石田教授 伊豆上教授
時間割	石田教授 大久保教授 高柳教授
博士後期課程専任教員審査等 (ワーキング)	石田教授 舟島教授 高柳教授

#### (2) 教育環境整備

##### ① コロナウイルス拡大に伴う措置

###### ・ ZOOMによる遠隔授業開始

大学院生に ZOOM のインストール方法および使用方法を指導し必要に応じて遠隔授業を開始した。

###### ・ 大学院予算でフェイスシールドを購入し必要に応じて活用するようにした。対面授業により蜜が予測される場合、専門看護師実習、研究論文および計画書審査時など

###### ・ 後期日程における授業のあり方

学部の方針と足並みを揃える必要性や、勤務先の病院から移動制限をかけられることを想定して対応していくことの必要性が話し合われた。学生の不利にならないよう、共通必須科目については遠隔授業対応が中心となる(臨床薬理学は学部と調整)。専門領域は各領域で対応することが確認された。

##### ② 学生便覧の修正について

次年度大学院学生便覧の修正として学位論文執筆要領をAPAスタイルとしそれに併せた修正を行うこと、論文の綴り方についても解りやすい表記とすること等が承認された。次年度の教学オリエンテーションにて博士前期・後期課程の学生に周知する予定である。

#### (3) 論文発表会

##### ① 学位論文審査

博士前期課程学位論文提出 17 名 (1 名は前期修了、その内訳は 13 名は研究コース、4 名は CNS コース) あり、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。

##### ② 学位論文発表会の開催

学位論文発表会は令和3年3月3日に行われた。今年度は新型コロナウイルス (Covid-19) 感染予防を徹底し、昨年度は教職員、発表予定大学院生のみでの出席としたが、今年度は zoom を併用した発表会とした

ため、大学院生全員が参加することができた。

### ③時間割

昨年度、時間割編成の基本的な考え方や表枠・入力方法等を整理し事務局へ引きつなされた。看護基盤分野及び共通基盤分野科目を記載した時間割Aが3月に作成された後、各領域別科目を記載した時間割Bを作成すること、学生への説明は、入学ガイダンス時に時間割Aを、領域別ガイダンス時に時間割Bを説明することとなった。

### ④新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入学博士後期課程2名博士前期課程8名に対してガイダンスを行った。同日、D2およびD3・M2生に対してもガイダンスを実施した。

D3 M2生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。

### ⑤大学院生向け特別セミナーの開催

大学院セミナーは令和3年9月4日に群馬中央病院和漢診療部長小暮敏明先生を講師として招聘し、遠隔講義（ZOOM）により「支持療法における漢方薬の位置づけ・緩和ケアと漢方・有害事象による末梢神経症状」というテーマで実施し、大学院生および教員の参加があった。

### ⑥大学院看護学研究科博士後期課程を新たに担当する教員の選考基準の作成・審査

「大学院博士後期課程を担当する専任教員の資格内規作成」についてワーキンググループ4名（石田研究科長、舟島教授、高柳教授、事務局吉澤）で行い、大学院博士後期課程を新たに担当する教員の選考に関する申し合わせ基準を作成した。「大学院博士後期課程を新たに担当する教員の選考に関する申し合わせ基準」に基づき、博士後期課程研究指導教員1名、博士後期課程研究補助教員2名、博士後期課程授業担当教員2名が承認された。

### ⑦大学院看護学研究科博士前期課程を新たに担当する教員の選考

大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき検討した。研究指導教員1名、科目担当者2名が承認された。

### ⑧博士後期課程論文提出における審査結果用紙、申請書など提出審査書類の作成

ワーキンググループ4名（石田研究科長、舟島教授、高柳教授、事務局吉澤）で博士後期課程論文提出における書類（予備審査・本審査申請用紙、予備審査・本審査審査結果用紙、履歴書など）を作成した。これに伴い、論文博士における書類の作成も行った。博士後期課程における論文審査に必要な書類の準備はできた。

### ⑨特任講師実践活動報告会（専門看護師実践活動報告会）の開催

特任講師実践活動報告会は昨年度コロナ感染症（Covid-19）拡大により延期となっていた。令和3年11月13日に令和1年度および令和2年度の特任講師実践活動報告会を実施した。

### ⑩令和3年度特任講師選定

教学委員会にて4名（がん看護学3名、老年看護学1名）の特任講師を推薦し、研究科委員会で承認を得た。

## 3. 次年度に向けた課題

(1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で遠隔講義について検討する。

(2) 大学院博士前期課程における助産学教育課程の申請を行う。令和6年度には募集が行えるよう準備する。（ワーキング）

(3) 大学院博士前期課程および後期課程における前期修了を検討する。（ワーキング）

(4) 大学院助産学教育課程を立ち上げるのと同時に大学院の編成・入学人数の検討を行う。

(5) 論文博士における英語の試験の時期を検討する。（ワーキング）

博士後期課程の専任教員の審査基準を作成し後期課程を担当できる教員審査を行う（ワーキングを立ち上げて行う）。

(6) 博士後期課程における修了者を出せる。

## 令和3年度 入学委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○大久保 明子、石田 和子、中村 義実、高林 知佳子、  
佐々木 三和  
事務局：森田 裕美

### 2. 活動概要

#### (1) 入学者の選考に関する事項

##### ①令和4年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験を令和3年8月26日(8月入試)と令和4年1月27日(1月入試)に実施し6名が受験した。また、大学院博士後期課程の入学者選抜試験を令和4年1月27日に実施し1名が受験した。最終的な令和4年度大学院入学者として、博士前期課程6名と博士後期課程1名が選抜された。

##### ②令和4年度科目等履修生入学者選抜の実施

令和4年度大学院博士前期課程と大学院博士後期課程の科目等履修生を募集したところ、大学院博士前期課程1名(4科目)の出願があった。規程に基づき審査を行った結果、合格となった。

#### (2) 大学院(博士前期課程・後期課程)入学定員充足と周知への取り組み

##### ①大学院説明会の実施

入学定員充足と大学院周知目的で、大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目等履修に関する大学院説明会を、6月と11月に対面・オンラインの併用にて実施した。

6月の第1回説明会では、大学院修了生2名による大学院での学びに関するプレゼンテーションならびに大学院の概要説明・教員紹介・個別面談を行い、8名の参加があり受験につながった。11月の第2回説明会は、専門看護師実践活動報告会と同日開催で行い、5名の参加があり受験につながった。

##### ②大学院の周知活動

本学大学院の学びの特色が分かりやすいよう、大学院博士前期課程と後期課程のリーフレットの見直しを行い、学生募集要項とともに新潟県内外の関係諸機関に配布した。さらに、看護研究交流センター事業に参加した看護職や大学院修了生・在学生を通じた周知活動を強化した。具体的には、学士課程の1年次生から4年次生へのキャリアガイダンスでの説明を行い、大学の同窓会には同窓会ホームページに大学院説明会案内の掲載ならびに大学院進学の相談窓口として2名の修了生の協力を得た。さらに、看護研究交流センター事業の看護職を対象とした事業の際に、大学院のPRを行い、大学院説明会への参加ならびに受験につなげることができた。

##### ③大学院博士前期課程の授業体験の取り組み

令和2年度に新型コロナウイルス感染症の感染対策により中止した大学院博士前期課程の授業体験を再開した。県内の入学者が少ないことから対象を県内の看護職に絞り、チラシ配布やホームページ等による周知を図った。前期受入科目は全てオンライン授業のみとし、後期受入科目は対面授業も加えた。前期受入科目の参加者はなかったが、後期受入科目では1名(1科目3コマ)の参加があった。

#### (3) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

令和2年度に改定した大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止のガイドラインとチェックリスト4種類を運用した。各チェックリストの内容の整合性を図るため、チェック項目の文章の見直しを行うとともに、作成年度に使用しなかった試験問題の保管とその対応について検討しガイドラインに加筆した。これら改定を行ったガイドラインとチェックリストは次年度より適用していく。

#### (4) 予算の執行状況について

令和3年度の予算額50,400円の執行額は4118円(第1回大学院説明会 修了生謝金)であった。



### 3. 次年度の課題

次年度の課題は以下の通りである。

- ①引き続き、大学院入学定員充足と周知への取り組みを行う。ホームページやチラシを通して広く周知を図るとともに、看護研究交流センター事業に参加した看護職や在学生・卒業生への周知活動をさらに強化していく必要がある。
- ②新潟県内の大学院受験者や入学者が少ないことから、県内看護職を対象とした大学院広報のための大学院前期課程科目の授業体験を引き続き実施する。
- ③大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止を徹底して講ずる。
- ④大学院科目履修制度における履修科目数または単位数の制限について検討する。